



鹿児島県

(公財)
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書
(36)

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (36)

南九州西回り自動車道(芦北出水道路)建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

山ノ段遺跡

やまのだんいせき
山ノ段遺跡

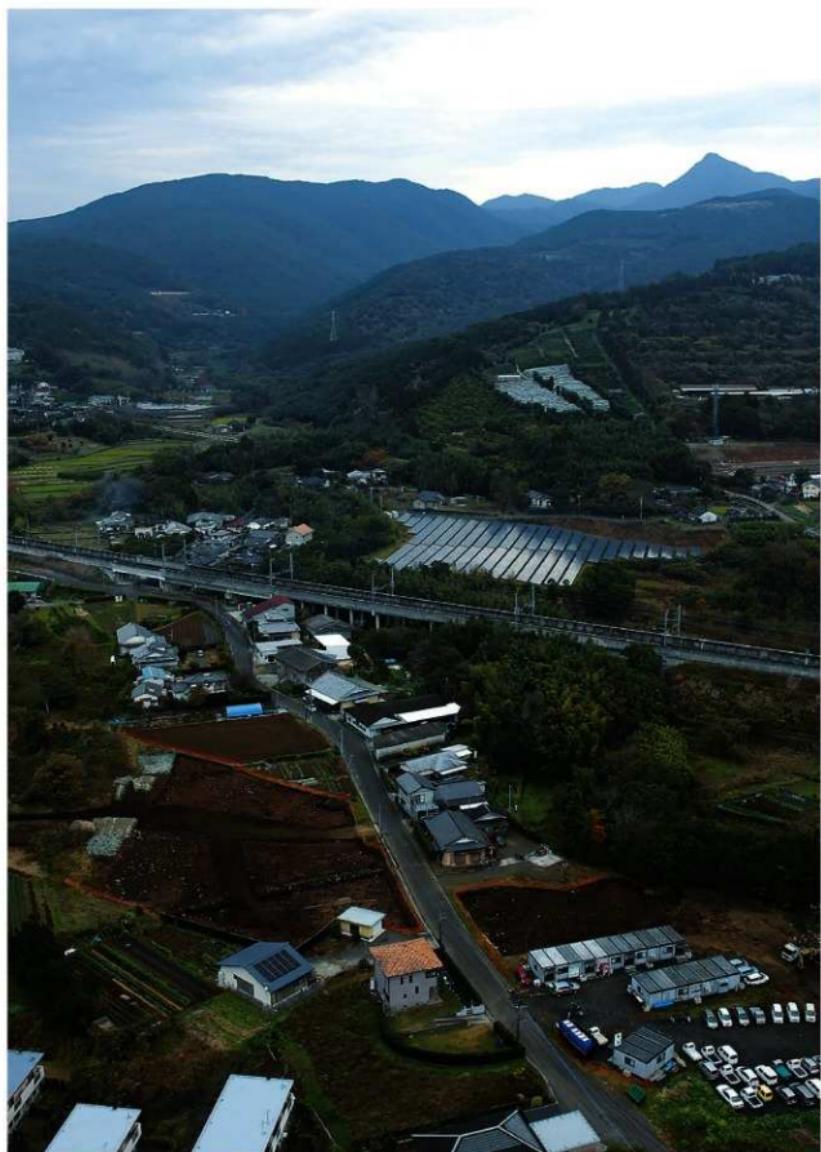
(出水市下鯖町)

一〇二一年二月

2021年2月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財調査センター
文化振興財団
鹿児島県
教育委員会
公益財団法人
鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター
| 団体



山ノ段遺跡遠景(西から)

序 文

この報告書は、南九州西回り自動車道（芦北出水道路）の建設に伴って令和元年度に実施された、出水市下鯖町平松上に所在する山ノ段遺跡の発掘調査の記録です。

山ノ段遺跡では、縄文時代早期を中心に多数の遺物が発見されました。中でも、発掘調査で出土した尖頭器は、重量が県内最大級のものでした。これらは、当時の人々の生活を解明する手がかりになるものと期待されます。

本書が、県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にご協力いただいた国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所、出水市教育委員会、関係各機関及び発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申し上げます。

令和3年2月

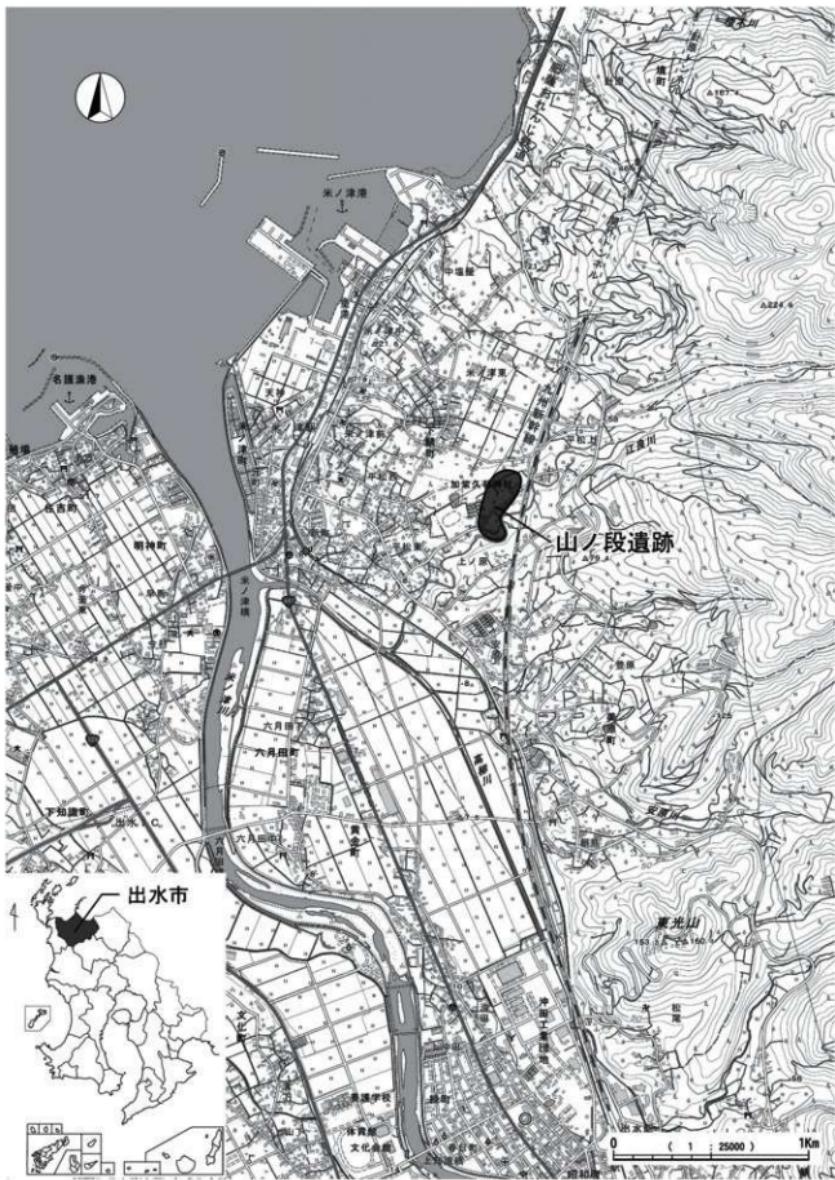
公益財団法人鹿児島県文化振興財団

埋蔵文化財調査センター

センター長 中原 一成

報 告 書 抄 錄

ふりがな	やまとだんいせき							
書名	山ノ段遺跡							
副書名	南九州西回り自動車道(芦北出水道路)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	36							
編著者名	加世田尊 山形敏行 高吉伸弥 郷原麻鈴 有馬孝一							
編集機関	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原繩文の森2番1号 TEL0995-70-0574 FAX0995-70-0576							
発行年月	2021年2月							
所収遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯 遭跡番号	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
鹿児島県 山ノ段遺跡	出水市 下郷町 平松上	46208	208-220	32°07'07"	130°21'05"	確認調査 2019.05.07~2019.05.29 本調査 2019.11.01~2020.01.30	4,215	南九州西回り 自動車道(芦 北出水道路) 建設に伴う記 録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
山ノ段遺跡	散布地	旧石器時代	-		細石刃核, 剥片			
		縄文時代 早期~晚期	-		前平式土器, 加栗山式土器, 吉田式土器, 石坂式土器, 政所式土器, 中原式土器, 下 利峯式土器, 桑ノ丸式土器, 塚ノ神式土 器, ナデ調整無文土器, 繩式土器, 曽畠式 土器, 深浦式土器, 松山式土器, 縮物庄痕 底部, 粗製深鉢, 精製浅鉢 石器(打製・磨製), 石器, 削器, 楔形石 器, 剥片, 原石, 尖頭器, 石斧(打製・磨 製), 錐状石器, 磨敲石器, 石皿			
		弥生時代以降	-		台付甕, 灰, 垂			
		時期不詳	炭化物集中 燒土集中 硬化面		砥石			
要約	本遺跡は、縄文時代を中心とした遺跡である。土石流の影響を受けやすい地形に位置し、流れ込んだ可能性のある遺物も出土している。前平式土器、加栗山式土器、政所式土器や、県内ではこれまで例を見ない大型の尖頭器など、縄文時代早期前葉～中葉を中心とした遺物が出土しており、当時の人々の生活の様子を知る上で貴重な遺跡である。							



山ノ段遺跡位置図

例 言

- 1 本書は、南九州西回り自動車道（芦北出水道路）建設に伴う山ノ段遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県出水市下舩町平松上に所在する。
- 3 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所（以下「鹿児島国道事務所」という。）から鹿児島県教育委員会（以下「県教委」という。）が受託し、公益財團法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター（以下「埋文調査センター」という。）が実施した。
- 4 発掘調査事業は、令和元年度に株式会社島田組に発掘調査支援業務を委託し、埋文調査センターの指揮・監督のもと行った。
- 5 整理作業・報告書作成事業は、令和2年度に埋文調査センターが実施した。
- 6 掲載した遺構・遺物の番号は通し番号であり、本文・掲図・表・図版の番号と一致する。
- 7 本書で用いたレベル数値は、海拔絶対高である。
- 8 本書で使用した方位は、磁北である。
- 9 遺物注記等で用いた遺跡記号は、「YND」である。
- 10 土色の表記は、「新版標準土色帖」（1970、農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づく。
- 11 発掘調査における実測図の作成は、埋文調査センター調査担当者の指示のもと、株式会社島田組が行つた。
- 12 発掘調査における写真撮影は、埋文調査センター調査担当者が行つた。また、空中写真撮影は株式会社ふじたに委託した。
- 13 本書に係る遺構図・遺物出土状況図及びトレースは、加世田・郷原が整理作業員の協力を得て行った。
- 14 本書に係る出土遺物の実測及びトレース・レイアウトは、加世田・高吉・郷原が整理作業員の協力を得て行った。また石器の実測・トレースの一部を、株式会社島田組及び株式会社九州文化財総合研究所に委託し、加世田・山形が監修した。
- 15 出土遺物の写真撮影は、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下「県立埋文センター」という。）の写場にて、埋文調査センターの福永修一が行った。
- 16 本書に係る自然科学分析は、令和2年度にテフラ分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に、石材产地推定分析を有限会社遺物材料研究所に委託した。
- 17 本書の執筆は、次のとおり分担して行った。

第Ⅰ章 発掘調査の経過	山形
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	高吉
第Ⅲ章 調査の方法と順序	高吉 郷原
第Ⅳ章 発掘調査の成果	
第1節 調査の概要	加世田 郷原
第2節 遺構	郷原
第3節 土器	加世田 郷原
第4節 石器	加世田 山形
第V章 自然科学分析	山形 有馬
第VI章 総括	加世田 高吉 郷原
- 18 本書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は県立埋文センターで保管し、展示・活用を図る予定である。

凡

- 1 本書掲載の遺構配置図・遺物出土状況図は1グリッド（1マス）が10 m四方であり、各図に縮尺を提示してある。

2 遺構

- (1) 遺構図の縮尺と略記号及び番号は、次のとおりである。

遺構名	縮尺	略記号及び番号
炭化物集中	1:20	SX 1
焼土集中	1:30	SX 2

なお、硬面については遺構配置図内で図示したため、図に提示してある縮尺を参照されたい。

- (2) 遺構内の炭化物、炭混じりの土、焼土について、網掛けによりその範囲を表した。

例

3 遺物

- (1) 遺物の縮尺は次のとおりで、詳細は各図に提示してある。

土器：全1:3

石器：小型の石織や剥片石器1:1

中型の剥片石器1:2

石斧や小型の礫石器1:3

大型の礫石器1:4

- (2) 石器の石材については、次頁のとおり分類した。

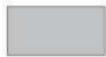
(3) 磨敵石類については磨石、敲石、磨敵石の3つで表記している。磨敵石は、磨石と敲石の両方の特徴をもつものである。

- (4) 遺物実測図の表現については、次頁のとおりである。

【遺構】



炭化物



灰混じりの土

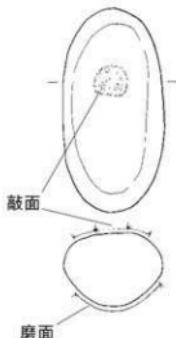


焼土

【石器】



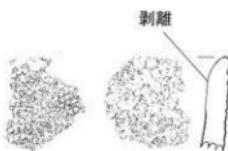
自然面



磨面

敲面

【土器】



剥離



ナデ

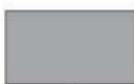


指ナデ



ハケ目

ミガキ



煤

【石材分類表】

石材	略号	特徴		指標原産地（代表）
黒曜石Ⅰ類	OB1	A群	不純物を含まないか、わずかに含むもので、アメ色～黒色を呈し、透明感度が高いもの。	桑ノ木津留
		B群	不純物をほとんど含まず灰色を呈し、部分的に白濁するもの。	
黒曜石Ⅱ類	OB2	不純物をわずかに含み、漆黒で全く光を通さないもの。		上牛鼻
黒曜石Ⅲ類	OB3	不純物がやや均一で、基質は黒色～アメ色を呈する。		五女木・日東
黒曜石Ⅳ類	OB4	A群	不純物をほとんど含まないか、白色の不純物をわずかに含むもので、基質は黒色～青灰色を呈するもの。	腰岳・古里・松浦
		B群	黒色の流痕を含み流離がみられ、基質は灰色～青灰色を呈するもの。	
黒曜石Ⅴ類	OB5	不純物をほとんど含まず、黒灰色～青灰色を呈するもの。		淀姫
黒曜石VI類	OB6	白色の不純物をわずかに含み、黒灰色～オリーブ黒色を呈するもの。		
安山岩Ⅰ類	AN1	1 mm大の白色不純物をわずかに含み、灰色～暗灰色を呈するもの。		
安山岩Ⅱ類	AN2	3 mm大の白色不純物を含み、にぶい橙色を呈するもの。		
安山岩Ⅲ類	AN3	黒色の不純物を含み、灰白色～オリーブ灰色を呈するもの。		

その他の石材については、次の略号を使用する。

チャート : CH, 凝灰岩 : TU, 泥岩 : MU, 砂岩 : SA, 頁岩 : SH

目 次

卷頭図版		
序文		第2節 本調査 12
報告書抄録		第3節 整理・報告書作成作業 12
山ノ段遺跡位置図		第4節 層序 14
例言		第IV章 発掘調査の成果 23
凡例		第1節 調査の概要 23
目次		第2節 遺構 23
第Ⅰ章 発掘調査の経過 1		1 炭化物集中 23
第1節 調査に至るまでの経緯 1		2 燃土集中 24
第2節 調査の組織 1		3 硬化面1・2 24
1 分布調査 1		第3節 土器 26
2 試掘調査 1		第4節 石器 51
3 確認調査 1		第V章 自然科学分析 65
4 本調査 2		第1節 自然科学分析の概要 65
第3節 調査経過（日誌抄より） 2		第2節 テフラ分析 65
第4節 整理・報告書作業の経過 3		第3節 石材产地推定 71
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 5		第VI章 総括 83
第1節 地理的環境 5		第1節 遺構 83
第2節 歴史的環境 5		第2節 遺物 83
第Ⅲ章 調査の方法と層序 11		1 土器 83
第1節 確認調査 11		2 石器 84
1 確認調査の方法 11		3 尖頭器 84
2 確認調査の概要 11		写真図版 87
		奥付

挿図目次

第1図 山ノ段遺跡周辺地形図 3		第9図 土層断面（1） 16
第2図 南九州西回り自動車道関係遺跡位置図 4		第10図 土層断面（2） 17
第3図 山ノ段遺跡周辺地形図（昭和50年撮影） 6		第11図 土層断面（3） 18
第4図 B・A・C断面図 7		第12図 土層断面（4） 19
第5図 周辺遺跡地図 10		第13図 土層断面（5） 20
第6図 トレンチ配置図 11		第14図 土層断面（6） 21
第7図 山ノ段遺跡調査区 13		第15図 土層断面（7） 22
第8図 土層断面位置図 14		第16図 炭化物集中・出土遺物 23

第17図	焼土集中・出土遺物	24	第38図	XIII～XVI類土器	46
第18図	遺構配置図	25	第39図	細石刃核・剥片、石器出土状況	51
第19図	土器出土状況	27	第40図	石鏃、剥片石器出土状況	52
第20図	I～III類土器、IV類土器出土状況	28	第41図	尖頭器・石斧等、礫石器出土状況	53
第21図	V～IX類土器、X～XIII類土器出土状況	29	第42図	打製石鏃I～III類	55
第22図	I～I類土器	30	第43図	打製石鏃IV～V類、磨製石鏃	56
第23図	I～II類土器	31	第44図	石錐、削器	57
第24図	II～III類土器	32	第45図	楔形石器、その他	58
第25図	IV～I類土器	33	第46図	尖頭器、打製石斧・磨製石斧、錐状石器	59
第26図	IV～2類土器	34	第47図	磨破石類（1）	60
第27図	IV～3類土器	35	第48図	磨破石類（2）、砥石	61
第28図	IV～4・5類土器	36	第49図	石皿	62
第29図	IV～6類土器（1）	37	第50図	重鉛物組成及び火山ガラス比	67
第30図	IV～6類土器（2）	38	第51図	火山ガラスの屈折率	68
第31図	IV～7・8類土器	39	第52図	斜方輝石の屈折率	69
第32図	V～VI類土器	40	第53図	重鉛物・軽鉛物	70
第33図	VII類土器、VIII類土器（1）	41	第54図	日本・朝鮮半島・極東ロシア・アラスカ州における第11～15表使用の石器伝播図	76
第34図	VIII類土器（2）	42	第55図	黒曜石原産地	76
第35図	VIII類土器（3）	43	第56図	鹿児島県石槍出土状況	85
第36図	IX類土器	44	第57図	鹿児島県出土の石槍・尖頭器	86
第37図	X～XII類土器	45			

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	8	第11表	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（1）	77
第2表	基本層序	14	第12表	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（2）	78
第3表	遺構内遺物観察表	25	第13表	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値（3）	79
第4表	土器観察表（1）	47	第14表	黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値（1）	79
第5表	土器観察表（2）	48	第15表	黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値（2）	80
第6表	土器観察表（3）	49			
第7表	土器観察表（4）	50			
第8表	石器観察表（1）	63			
第9表	石器観察表（2）	64			
第10表	テフラ組成分析結果	67			

第16表	九州西北地域原産地採取原石が各原石群に 同定される割合の百分率(%)	81	第19表	山ノ段遺跡出土黒曜石遺物の元素分析結果	82
第17表	山ノ段遺跡出土黒曜石製遺物の化学成分の 定性分析結果	81	第20表	山ノ段遺跡出土黒曜石遺物の検定結果	82
第18表	山ノ段遺跡出土黒曜石製遺物の化学成分の 相対含有百分率	81	第21表	石器組成表	84

図版目次

図版1	山ノ段遺跡遠景(東から)	87	図版14	VII類土器・VIII類土器(1)	100
図版2	調査区・調査状況	88	図版15	VIII類土器(2)	101
図版3	炭化物集中(SX1)・焼土集中(SX2)	89	図版16	VIII類土器(3)	102
図版4	遺物出土状況(1)	90	図版17	IX類土器	103
図版5	遺物出土状況(2)	91	図版18	X～XIV類土器	104
図版6	I類土器	92	図版19	XV・XVI類土器	105
図版7	II・III類土器	93	図版20	遺構内出土石器、旧石器時代出土石器、 石鍛	106
図版8	IV-1・2類土器	94	図版21	石錐、削器、楔形石器、その他石器	107
図版9	IV-3類土器	95	図版22	尖頭器	108
図版10	IV-4・5類土器	96	図版23	石斧、錐状石器	109
図版11	IV-6類土器(1)	97	図版24	磨敲石類、砥石、石皿	110
図版12	IV-6類土器(2), IV-7・8類土器	98			
図版13	V・VI類土器	99			

第Ⅰ章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯

県教委は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図っている。この事前協議に基づき、鹿児島国道事務所は、南九州西回り自動車道（芦北出水道路）建設の施工計画に基づき、事業区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育庁文化財課（以下「県文化財課」という。）に照会した。

これを受け、県文化財課及び県立埋文センターが、平成26年度に計画路線（芦北出水道路のうち、県境～出水IC間）の分布調査を実施した結果、事業区内には周知の遺跡を含め10ヶ所の遺物散布地の存在が判明し、鹿児島国道事務所に報告した。

分布調査の結果をもとに、鹿児島国道事務所、県文化財課、県立埋文センターの三者で今後の事業区間内の遺跡の取扱について協議を行い、埋蔵文化財の保護と事業推進の調整を図るために、事業着手前に発掘調査を実施することとした。山ノ段遺跡については、範囲と性格を把握するために平成29年10月26日、平成30年2月20日、平成31年2月1日に県文化財課が試掘調査を3回実施した。その結果、山ノ段遺跡において縄文時代早期の遺跡が残存することが確認された。

試掘調査の結果を受けて、本調査は県教委から埋文調査センターへ委託することとなった。このような経緯のもと、鹿児島国道事務所からの要望を受け、平成29年6月に鹿児島国道事務所と県文化財課、埋文調査センターの三者で協議を行った結果、山ノ段遺跡の本調査においても民間調査組織を導入し、支援業務委託契約を締結して実施することとなった。令和元年度に本調査が必要と判断された総表面積は、4,000m²（延面積4,000m²）である。

試掘調査の結果を受けて、遺跡の残存状況と範囲をより詳細に把握するため、県文化財課及び県立埋文センターは確認調査を実施した。調査期間は、令和元年5月7日（火）～令和元年5月29日（水）で、実働16日である。

確認調査の結果、当初本調査が必要とされた範囲に隣接して、さらに調査必要範囲が広がることになった。そこで、鹿児島国道事務所と協議の上、総表面積4,215m²（延面積4,215m²）とし、令和元年度に本調査を実施した。調査期間は、令和元年11月1日（金）～令和2年1月30日（木）で、実働55日である。

第2節 調査の組織

1 分布調査（平成26年度）

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

調査企画 鹿児島県教育庁文化財課

調査担当 鹿児島県教育庁文化財課

文化財主事 黒川 忠広

鹿児島県立埋蔵文化財センター

第一調査係長 大久保浩二

〃 文化財研究員 真鍋 彩

立会者 出水市教育委員会生涯学習課

主査 岩崎 新輔

国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所

企画係長 井久保和博

〃 技官 下平 恭平

南九州西回り自動車道（出水～阿久根）

プロジェクト推進室

建設専門官 原田 修

主査 岩崎 新輔

2 試掘調査（平成29年度）

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会

調査企画 鹿児島県教育庁文化財課

調査担当 〃 文化財主事 平 美典

立会者 國土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所

企画係長 岡元 侑己

調査協力 出水市教育委員会文化財課

主査 橋元 邦和

3 確認調査（令和元年度）

事業主体 鹿児島県

調査主体 鹿児島県教育委員会

調査企画 鹿児島県教育庁文化財課

調査統括 鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長 前迫 亮一

〃 次長兼秘書課長 野間口 誠

〃 調査課長 中村 和美

〃 第二調査係長 三垣 恵一

調査担当 〃 文化財主事 限元 俊一

〃 〃 阿比留士朗

事務担当 〃 主査 新徳 秀貴

調査協力 出水市教育委員会文化財課

係長 岩崎 新輔

〃 主査 橋元 邦和

4 本調査（令和元年度）

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所
調査主体 鹿児島県教育委員会
調査統括 公益財団法人鹿児島県文化振興財團
埋蔵文化財調査センター

調査企画 # センター長 中原 一成
総務課長 中島 治
調査課長 寺原 徹
調査第二係長 有馬 孝一
調査担当 # 文化財専門員 真邊 彩
事務担当 # 主査 有川 剛弘
事業推進員 平澤 珠里

発掘調査の実施にあたり、埋文調査センターは「埋蔵文化財発掘調査支援業務の委託実施要項」に基づき、株式会社島田組へ六反ヶ丸遺跡と併せて本調査（記録保存調査）等の支援業務の委託を実施した。なお、埋文調査センター職員1名が常駐し、調査の方法及び業務内容に係る指導・助言及び調査現場の監理を行った。

委託先 株式会社 島田組

調査体制 # 主任技術者 岩佐 篤志
主任調査支援員 堀井 泰樹
調査支援員 丹生 泰雪
井上 索裕

委託期間 平成31年4月5日～令和2年3月8日
(山ノ段遺跡調査期間は令和元年11月1日～
令和2年1月30日)

委託内容 記録保存調査 1式
測量業務 1式
土工業務 1式

検査中間検査 令和元年11月15日(金)
完成検査 令和2年2月25日(火)
(実地検査)
令和2年2月28日(金)
(成果物検査)

第3節 調査経過（日誌抄より）

本調査について、日誌抄を月ごとに集約して記した。

令和元年11月

A調査区

III a層掘削、黒色土掘削、礫層上面まで重機掘削

B調査区

確認トレンチ復旧、南西端・北東端トレンチ設定

J-14～16区：III a層掘削、III a層遺物出土状況写真
撮影、III b層掘削

E～H-19区：III a層掘削

11日 現地調査 有馬係長

13日 監理業務 三垣係長（県立埋文センター）
15日 中間検査
21日 現地指導 中原センター長
安全パトロール 田中文化財専門員
宮田文化財専門員

24日 現地調査 有馬係長

整理作業
遺物洗浄、遺物注記

令和元年12月

A調査区

調査終了写真撮影

B調査区

J・K-13～17区：III a層掘削

E-18-19区：III a層掘削

G・H-19・20区：III a層掘削、遺物出土状況写真撮影

J・K-17-18区：III a層掘削、遺物出土状況写真撮影

F・G-19-20区：III a層掘削

E・F-16-17区：III a層掘削

SX1 検出、写真撮影、図面作成、掘削

SX2 検出、写真撮影

4日 現地指導 寺原課長

10日 監理業務 中村課長（県立埋文センター）

25日 空中写真撮影

整理作業

遺物洗浄、遺物注記

令和2年1月

A調査区

下層確認トレンチ

B調査区

G・H-17区：III a層掘削

K-14区：III a層掘削

SX2 図面作成

J～L-13～17区：III a・III b層掘削、硬化面検出、
半截、完掘状況写真撮影

F・H-16・17区：III a層掘削、遺物出土状況写真
撮影

I-14～18区：III a層掘削

K-14区：III a層掘削

SX2 遺物出土状況写真撮影、図面作成、掘削

7日 来跡 橋元氏（出水市教育委員会文化財課）

10日 安全パトロール 肥後文化財専門員、平澤主事

15日 現地調査 有馬係長

16日 現地指導 森脇広氏、成尾英仁氏

28日 現地指導 寺原課長

30日 発掘作業終了

整理作業

遺物整理、遺物注記、接合

第4節 整理・報告書作業の経過

整理・報告書作成作業は、令和2年度に埋文調査センター第一整理作業所で行った。調査体制及び整理・報告書作成の経過については、以下の通りである。

事業主体 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所
調査主体 鹿児島県教育委員会

調査統括 公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

	セ ク テ ー ジ 長	中原 一成
調査企画	〃 総務課長	中島 治
	〃 調査課長	寺原 徹
	〃 調査第二係長	有馬 孝一
調査担当	〃 文化財専門員	加世田 尊
	〃	山形 敏行
	〃	高吉 伸弥
	〃 文化財調査員	郷原 麻鈴
事務担当	〃 主査	有川 剛弘

作業の経過

整理・報告書作成作業については、日誌抄を月ごと集約して記した。

令和2年4月 洗浄、注記、遺物分類、土器接合、図面整理、遺構図作成、科学分析委託準備

5月 土器接合、遺物実測、遺構図・土層断面図作成、発掘調査写真抽出、原稿執筆

6月 遺物実測、拓本、土層断面図作成

7月	遺物トレース・レイアウト、原稿執筆
8月	遺物トレース・レイアウト、原稿執筆
9月	遺物写真撮影準備・レイアウト、観察表作成、原稿執筆
10月	遺物写真撮影・レイアウト、観察表作成、原稿執筆、校正
11月	遺構配置図・遺物出土状況図作成、原稿執筆、校正、入稿
12月	校正

令和3年1月 校正、遺物・図面等の整理
2月 報告書納品、遺物・図面等の収納

第1回報告書作成指導委員会

令和2年6月2日 寺原課長ほか6名

第1回報告書作成検討委員会

令和2年6月11日 中原センター長ほか5名

第2回報告書作成指導委員会

令和2年6月5日 寺原課長ほか6名

第2回報告書作成検討委員会

令和2年8月11日 中原センター長ほか5名

第3回報告書作成指導委員会

令和2年10月7日 寺原課長ほか6名

第3回報告書作成検討委員会

令和2年10月13日 中原センター長ほか5名

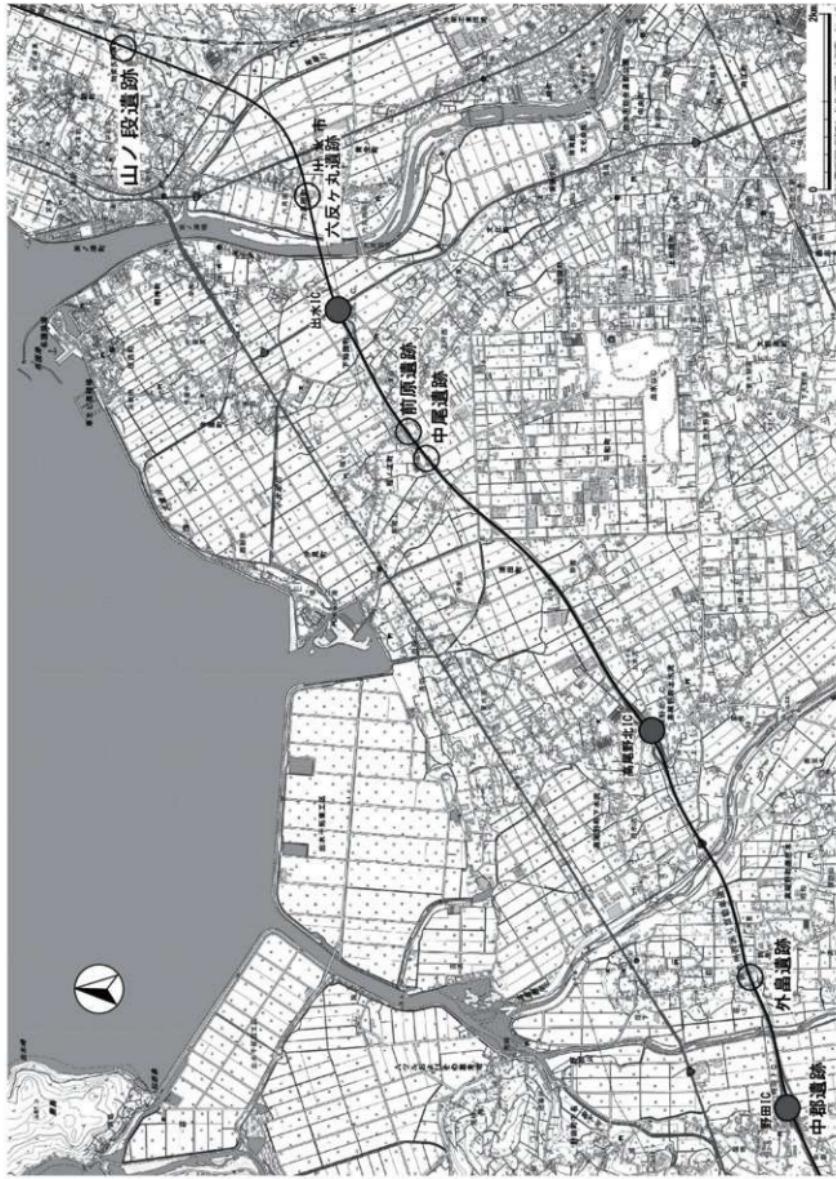
第4回報告書作成検討委員会

令和2年10月27日 中原センター長ほか5名



第1図 山ノ段遺跡周辺地形図

第2図 南九州西回り自動車道関係道路位置図



第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

山ノ段遺跡は、薩摩半島の北西部、鹿児島県出水市下鶴町平松上に所在する。本遺跡の所在する出水市は、1954（昭和29）年に出水町と米ノ津町が合併して誕生した。その後、2006（平成18）年には出水市と野田町、高尾野町が合併し、現在の出水市となった。市域は東西約27km、南北約23kmで、面積は329.98km²を測る。令和2年度時点では世帯数25,416世帯、人口53,435人を数える。

出水市の北東部には矢筈岳を中心とする肥薩山塊があり、北は熊本県水俣市に、東は伊佐市に接する。南部には北薩一の紫尾山を中心とする紫尾山地が横たわり、薩摩川内市、さつま町と接する。西は阿久根市と接し、北西側には八代海（不知火海）が広がり、長島や天草を望む。紫尾山地の北側では、南九州で広く見られるシラス台地がわずかしか存在せず、これに代わって標高100m以下には出水扇状地・高尾野扇状地・野田扇状地・米ノ津扇状地が形成され、出水平野の大半を占める。扇状地の周辺には知識面と呼ばれる河岸段丘が細長く形成される。河岸段丘の下方は米ノ津川下流域になっており、氾濫原により米ノ津面と呼ばれる沖積地が発達し、県内でも有数の穀倉地帯となっている。さらに、河口付近には三角州や海岸平野も見られ、遠浅な海岸部は江戸時代から干拓が行われ、現在の水田地帯となっている。なかでも、荒崎地区は鶴の越冬地として有名で、国の特別天然記念物として指定されている。また、紫尾山地と扇状地との間には、熊本県水俣市から出水市野田町へと延びる出水断層がある。遺跡近隣には薩摩二之宮の加紫久利神社や、肥後と薩摩との境界にあたる野間の関跡が所在する。最近では市街地周辺でも土地開発が進み、遺跡周辺は宅地開発に伴い、集落が形成されてきている。

山ノ段遺跡周辺の地形について、鹿児島大学名誉教授森脇広氏、鹿児島県考古学会会員成尾英仁氏に御指導をいただいた。

出水平野には、出水扇状地・高尾野扇状地・野田扇状地・米ノ津扇状地の4つの扇状地が形成されている。出水平野の北東・北西側には肥薩火山岩類、南側の紫尾山地には四十万層群が広く分布しており、それぞれの扇状地堆積物の基盤をなしていると考えられる。扇状地では開析が進行して、段丘面や深い河谷が形成され（第4図-①）、地表面は砂礫層がアカホヤ火山灰や表土層によつて広く覆われている。

出水平野北東部には、矢筈岳麓に広がる米ノ津扇状地が形成され、肥薩火山岩類が広く分布している。本遺跡は、この米ノ津扇状地縁辺部にあり、肥薩火山岩が分布

する山地を源流とした江良川中流右岸、標高25~30mの段丘面上に位置する（第3図）。本遺跡周辺の地形の断面A・Cを見ると、肥薩火山岩類が分布する矢筈岳の麓側の急勾配な斜面から、段丘面の緩やかな斜面、沖積低地の平坦面へと地形が変化していることがうかがえる（第4図-②・③）。本遺跡の段丘面を形成する堆積物には、肥薩火山岩類の岩石からなる巨礫が多く散在する。この堆積物は巨礫とともに細粒のシルト・粘土を多く含んでいることから、土石流として堆積したと考えられる。また、その巨礫を含む堆積物を覆って薄く土壌が形成される。この土壌の中に所々見られる淡褐色の土壌は、鬼界アカホヤ火山灰とみられる。しかし、土壌の中に多くの礫や砂が混入していることから、この鬼界アカホヤ火山灰は二次的に移動し、擾乱されていると考えられる。また、部分的に地層横転を起こしている所が散見される。よって本遺跡周辺は、倒木や小規模の土石流などが生じやすい、地質的・地形的に不安定な場所であったと推定される。

第2節 歴史的環境

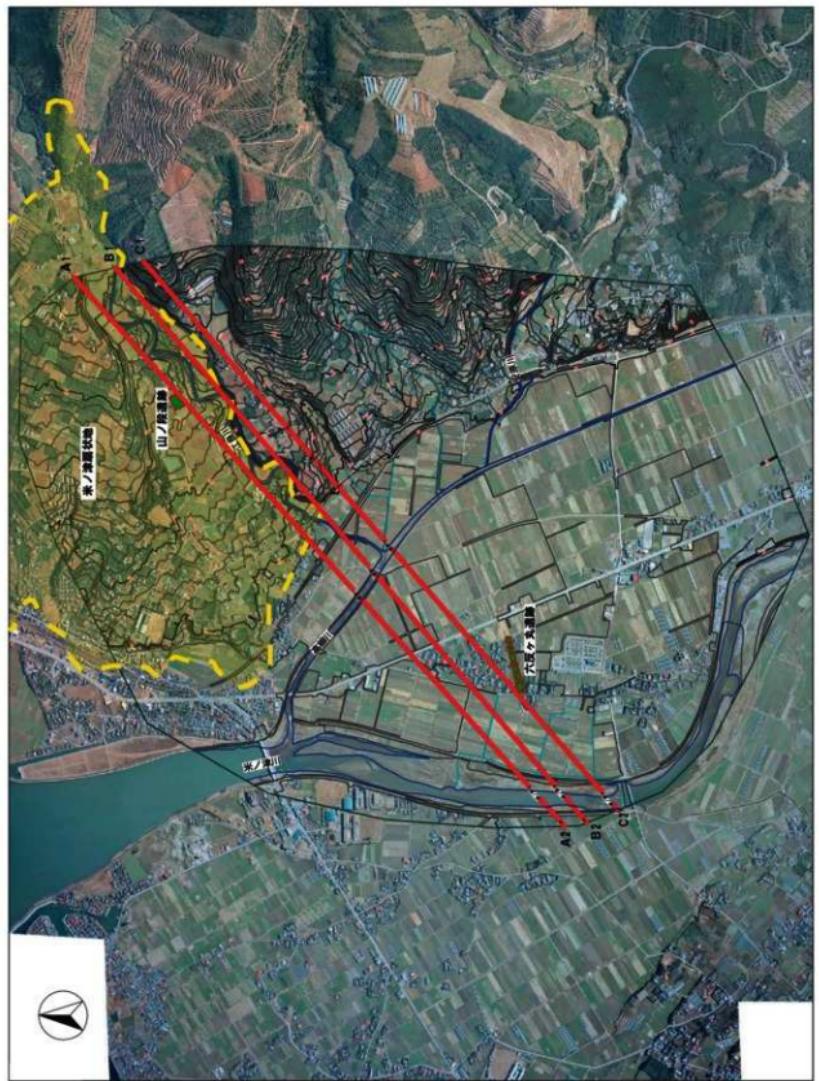
出水市の東部、標高約500mの上場高原一帯は、上場遺跡、狸山遺跡、大久保遺跡、郷田遺跡、池ノ段遺跡等の旧石器時代の遺跡が集中する。上場遺跡は県内で初めて発掘調査が実施された旧石器時代の遺跡である。調査の結果、爪形文土器と細石器の共伴やナイフ形石器、台形石器等を包含する7時期の文化層の存在が明らかになった。大久保遺跡では、細石器文化期の逆茂木跡をもつ落とし穴が検出された。

出水平野での遺跡の立地は、主に河岸段丘や山麓縁辺・裾部に集中し、縄文時代早期・前期・後期では牛田尻遺跡やカラム追跡、前期の莊貝塚、中期の柿内遺跡や江内貝塚が知られている。本遺跡から約2.5km南には、縄文時代後期の出水式土器の標識遺跡として有名な出水貝塚が位置する。その他、沖田岩戸遺跡、中里遺跡、下終迫遺跡が知られている。

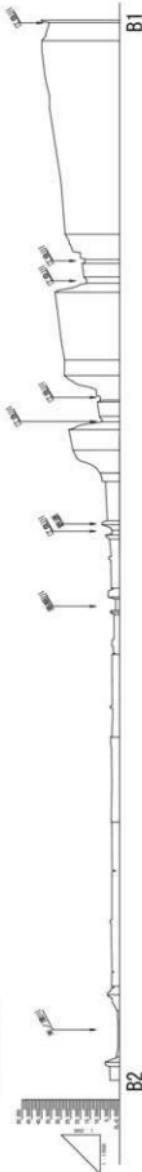
弥生時代の遺跡としては、中期の覆石墓から後期の葺石土壙、古墳時代の地下式板石積石室へと移行する埋葬形態の変遷を知ることができる堂前遺跡や下高尾野遺跡がある。

古墳時代では洪積台地縁辺に位置し、地下式板石積石室に伴い短甲や金環等の副葬品が出土した溝下古墳群、海岸線沿いに位置する箱式石棺が検出された切通古墳がある。また、出水市の西方に海を隔てて位置する長島では5世紀から7世紀にかけて高塚古墳が出現する。

第3図 山ノ段遺跡周辺地形図（昭和50年撮影）

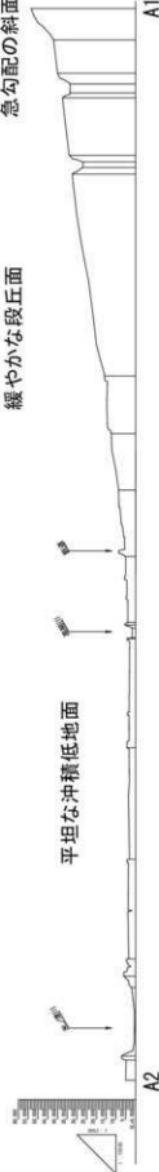


① B断面図



開析により形成された河谷

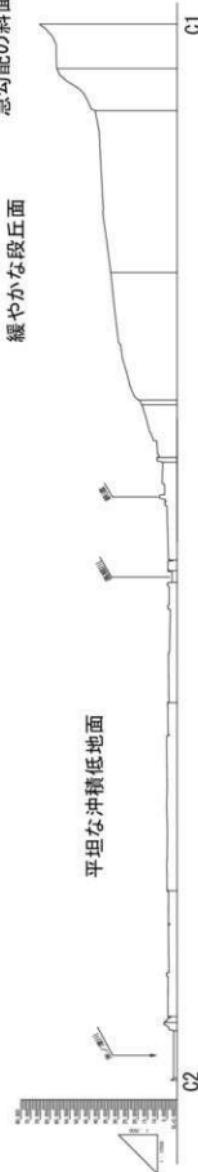
② A断面図



平坦な冲積低地面

緩やかな段丘面

③ C断面図



平坦な冲積低地面

急勾配の斜面

第4図 B・A・C断面図

出水の地名が文献資料にあらわれるのは「続日本紀」である。奈良時代後期の宝亀9(778)年11月の条に遣唐船が出水海岸に漂着したとされている。その後、和名抄に「伊豆美」とあり、建久4年帳に「和泉郡」として登場する。平安時代には「院」が成立し、その後、山門院となり和泉郡から荘園化し、島津荘の成立と共に吸収される。島津荘は日向国島津院を中心に薩摩・大隅・日向にまたがる大荘園であった。また、島津忠久が元暦2(1185)年に島津荘下司職に補任され、忠久は木牟礼城に守護被官本田貞親を入部させ、木牟礼城は五代貞久まで薩摩国守護所として守護勢力の拠点となる。その後、守護被官本田氏一族の所領に組み込まれ、やがて島津用久が薩州家を興すと共に荘園は崩壊する。なお、木牟礼城跡に隣接する中郡遺跡群の発掘調査では中世前半期の掘立柱建物跡や堅穴建物跡等が検出され、同時期の貿易陶磁器の中には全国的にも出土例の少ない龍首水注が出土している。

建久8(1197)年の「薩摩国図田帳」に記された安楽寺領老松莊は荘地区に所在したとされ、他の安楽寺領と異なり在地領主のいない安楽寺の一円支配であったと考

えられている。外島遺跡で発見された中世の方形堅穴建物跡や掘立柱建物跡は、老松莊の一部または隣接地として関連があると想定される。藩政期になると島津家の外城制度の下に藩境地としての政治的要所の性格を強め、藩内外から派遣された郷士が居を構える県内でも最大規模の武家屋敷等の集中地である「籠」を形成するに至った。

南九州西回り自動車道建設に係る発掘調査として、本遺跡の近隣に中尾遺跡、野間の関所堀跡、大坪遺跡、六反ヶ丸遺跡などがある。中尾遺跡は平成25年度に発掘調査が実施され、縄文時代晩期の土坑1基が検出され、土器片及び黒曜石の剥片が確認された。野間の関所堀跡は平成20年度の調査で、現用水路の底面部下に礪敷遺構が検出された。大坪遺跡は平成11・12年度に発掘調査が行われ、縄文時代後期末から晩期の上加世田式土器・入佐式土器の埋設土器と勾玉・管玉といった玉製品が多量に出土した。六反ヶ丸遺跡は平成29年度から発掘調査を実施しており、縄文時代後期の土坑、弥生から古墳時代の堅穴住居跡、土坑、埋設土器、溝状遺構、古代の土坑や多数のビットが検出されている。

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	種別	主な時代
1	櫓木福荷平A	鹿児島県出水市境町櫓木	散布地	縄文時代
2	前ノ段	鹿児島県出水市境町針原	散布地	縄文時代、近世
3	小針原	鹿児島県出水市境町針原	散布地	縄文時代
4	坂元B	鹿児島県出水市境町閑外	散布地	縄文時代
5	上針原	鹿児島県出水市境町針原	散布地	縄文時代
6	大丸	鹿児島県出水市境町針原	散布地	縄文時代
7	坂元A	鹿児島県出水市境町閑外	散布地	縄文時代、近世
8	中塙屋	鹿児島県出水市境町中塙屋	散布地	縄文時代、古代、中世
9	供養元	鹿児島県出水市境町中塙屋	散布地	縄文時代
10	外間	鹿児島県出水市境町中塙屋	散布地	縄文時代、古代
11	上塙	鹿児島県出水市境町中塙屋	散布地	縄文時代、近世
12	永坂下元段	鹿児島県出水市境町閑外	散布地	縄文時代、近世
13	孫山	鹿児島県出水市境町閑外	散布地	縄文時代
14	野間	鹿児島県出水市境町中塙屋	散布地	縄文時代
15	坪ノ後	鹿児島県出水市米ノ津町米ノ津中	散布地	縄文時代
16	野間の間跡	鹿児島県出水市下崎町堀之内	その他	近世(安土桃山)
17	永坂	鹿児島県出水市境町閑外	散布地	縄文時代
18	坪ノ前	鹿児島県出水市米ノ津町米ノ津東	散布地	古墳時代
19	野間原	鹿児島県出水市下崎町平松上	散布地	縄文時代、近世
20	野畑A	鹿児島県出水市米ノ津町米ノ津東	散布地	縄文時代、近世
21	野畑B	鹿児島県出水市米ノ津町米ノ津東	散布地	縄文時代、中世、近世

番号	遺跡名	所在地	種別	主な時代
22	野原C	鹿児島県出水市米ノ津町米ノ津東	散布地	縄文時代、中世、近世
23	加紫久利山	鹿児島県出水市下鰯町平松西	散布地	縄文時代、近世
24	狩集	鹿児島県出水市下鰯町平松上	散布地	縄文時代
25	山ノ田A	鹿児島県出水市下鰯町上ノ原・平松上	散布地	縄文時代
26	山ノ田B	鹿児島県出水市下鰯町上ノ原・平松上	散布地	旧石器時代、縄文時代、近世
27	山ノ段	鹿児島県出水市下鰯町平松上	散布地	縄文時代、近世
28	平松	鹿児島県出水市下鰯町平松東	散布地	縄文時代、古墳時代、古代（奈良、平安）
29	美原上ノ原	鹿児島県出水市美原町上ノ原	散布地	縄文時代
30	六反ヶ丸	鹿児島県出水市六月田町六月田下	散布地	古墳時代、古代（奈良、平安）
31	安原城跡	鹿児島県出水市美原町上ノ原	城館跡	中世
32	安原廬	鹿児島県出水市美原町安原	散布地	縄文時代、弥生時代、古墳時代
33	大坪	鹿児島県出水市黄金町・美原町	散布地	縄文時代、古代（奈良、平安）
34	朝熊城跡	鹿児島県出水市美原町朝熊	城館跡	中世
35	諏訪後	鹿児島県出水市美原町朝熊	散布地	縄文時代、古代（奈良、平安）
36	沖田岩戸	鹿児島県出水市黄金町・美原町	散布地	縄文時代、古代（奈良、平安）
37	牛ヶ追東平	鹿児島県出水市上鰯瀬山頂	散布地	中世
38	宮ノ脇	鹿児島県出水市上鰯瀬松尾	散布地	弥生時代
39	松尾城跡	鹿児島県出水市上鰯瀬松尾	城館跡	中世
40	太田城跡	鹿児島県出水市上鰯瀬太田	城館跡	中世
41	西宮ノ脇	鹿児島県出水市下知識町津山	散布地	古墳時代
42	野添	鹿児島県出水市下知識町	散布地	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代
43	穴水	鹿児島県出水市下知識町津山	散布地	縄文時代
44	御堂	鹿児島県出水市下知識町上村西	散布地	古墳時代、中世
45	谷城跡	鹿児島県出水市下知識町上村西	城館跡	中世
46	川陰	鹿児島県出水市文化町上村東	駁道	古墳時代、古代
47	庵木園	鹿児島県出水市知識町上村東	散布地	縄文時代、古墳時代
48	桝松	鹿児島県出水市下知識町上村	散布地	古墳時代
49	下郡山	鹿児島県出水市文化町溝下	散布地	縄文時代、古墳時代
50	溝下古墳群	鹿児島県出水市文化町399	地下式 板石積石室	古墳時代
51	上松	鹿児島県出水市文化町上松	散布地	縄文時代
52	下春川	鹿児島県出水市文化町溝下	散布地	古墳時代
53	抉六	鹿児島県出水市平和町上村	散布地	縄文時代、近世
54	北吉子	鹿児島県出水市平和町鹿島	散布地	縄文時代、古代
55	堤原	鹿児島県出水市知識町鹿島	散布地	中世
56	堀込	鹿児島県出水市知識町鹿島	散布地	縄文時代、古代

-参考文献-

出水市教育委員会 2000 『出水貝塚』

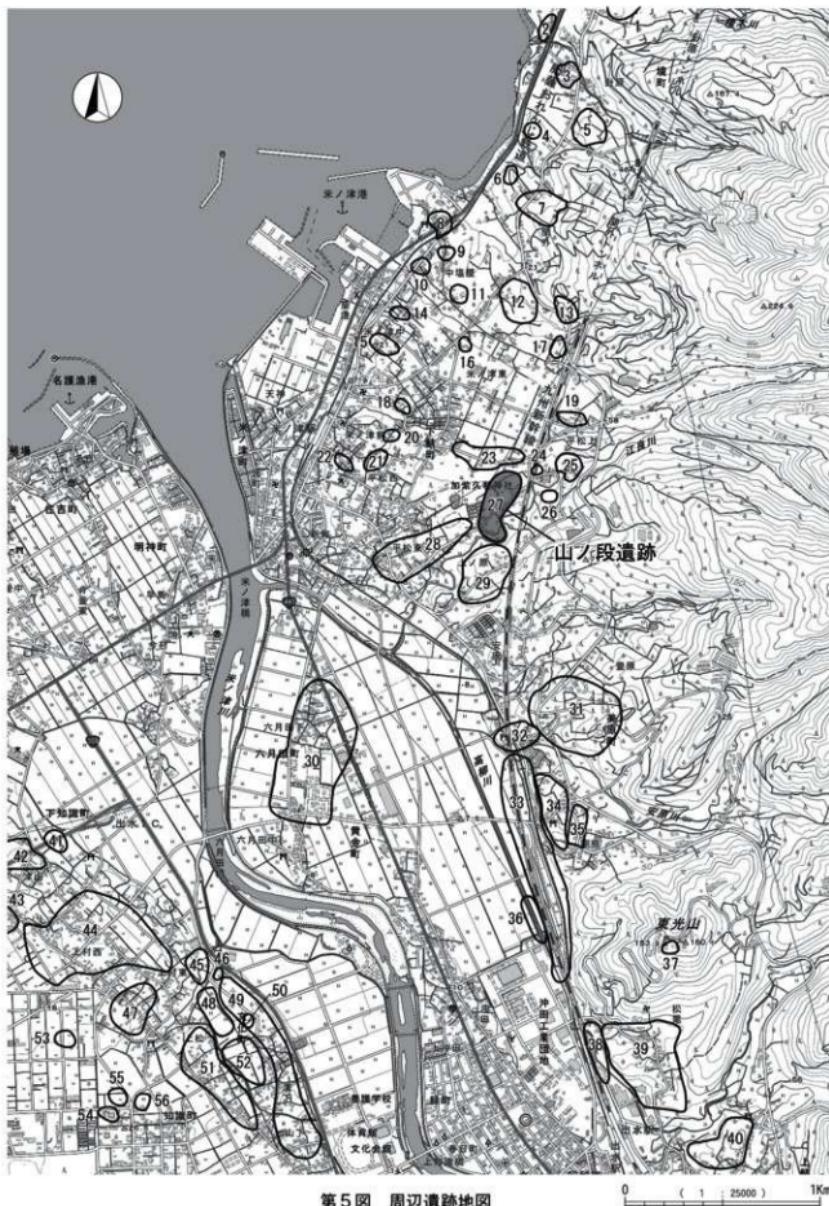
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005 『大坪遺跡』

出水市教育委員会 2010 『出水麓遺跡』

公益財団法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2014 『中部遺跡群』

公益財団法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2016 『中部遺跡群II・中尾遺跡・前原遺跡』

公益財団法人鹿児島県文化振興財團埋蔵文化財調査センター 2020 『六反ヶ丸遺跡1』



第5図 周辺遺跡地図

第Ⅲ章 調査の方法と層序

本章では、確認調査の方法と結果、発掘調査の方法、整理報告書作成作業、層序について簡潔に述べる。

第1節 確認調査

1 確認調査の方法

確認調査は、令和元年5月7日（火）～令和元年5月29日（水）まで実施した。当初の確認調査対象面積は7,474m²であったが、遺物包含層の残存範囲をより詳細に把握するため、平成30年2月20日に実施した試掘調査範囲も調査を行ったため、変更後の確認調査対象面積は10,704m²である。調査を実施した延べ表面積は23m²である。

調査の結果、遺構は確認されなかった。遺物は縄文時代早期の土器、縄文時代晩期の土器、弥生土器、古代の須恵器、近世の染付、黒曜石製フレーク・チップ、チャート製フレークが確認された。

2 確認調査の概要

トレンチ番号は試掘調査時からの連番とし、令和元年度は22～33トレンチの12か所を設定した（第6図）。確認調査の結果は以下のとおりである。

22・23トレンチ

表土とIIa層を掘削したところ、IV層が露出した。径が10～70cm程度の礫が一面に広がる状態であった。70cm程度掘り下げたところV層上面に到達した。遺構は確認されなかった。遺物は23トレンチのI層から縄文時代早期のものと思われる土器片が出土したが、表土内で出土したため流れ込みと考えられる。

24トレンチ

表土とIIa層を掘削したところ、IV層が露出した。重機による掘削で下層確認を行ったが、遺構は確認されなかった。遺物はIIa層から黒曜石製のフレークが出土したが、流れ込みと考えられる。

25トレンチ

表土とIIa層を掘削したところIV層が露出し、径が10～70cm程度の礫が一面に広がる状態であった。その後、重機による下層確認を行ったが、V層が1m以上堆積していることが確認された。V層中には直径1.2m程度の巨岩も含まれていたが、遺構は確認されなかった。遺物はI層から近世の陶器が出土した。



第6図 トレンチ配置図

26トレンチ

表土とⅡa層を掘削したところⅣ層が露出した。径10～30cm程度の礫が混入していた。V層が露出したところで調査を終了した。遺構は確認されなかった。遺物はI層とⅡa層から陶磁器片が出土した。

27トレンチ

褐色～暗褐色砂質土層のⅢa～Ⅲc層が堆積していることが確認できた。遺物は礫の混入が少ないⅢa・Ⅲb層から出土した。出土遺物は縄文時代早期土器、縄文時代晚期土器、弥生土器、石皿、黒曜石製フレーク・チップ、チャート製フレークである。土器は型式不明のものが多いが、加賀山式の角筒土器片が出土した。遺構は確認されなかった。

28トレンチ

表土とⅡa層を掘削したところ、Ⅳ層が露出した。重機による掘削で下層確認を行った。V層を検出時点で調査を終了した。遺物・遺構は確認されなかった。

29・30・31トレンチ

表土とⅡa層を掘削したところⅣ層が露出し、径10～50cm程度の礫が一面に広がる状態であった。IV層上面で調査を終了した。遺物・遺構は確認されなかった。

32トレンチ

表土、Ⅱa～Ⅱc層を掘削したところ、Ⅳ層が露出した。IV層上面は径が10～30cm程度の礫が広がる状態であった。IV層を重機で掘削し、下層確認のためさらにV層も掘削を行ったが、遺物・遺構は確認されなかった。

33トレンチ

表土、Ⅱa～Ⅲa層を掘削し、Ⅲc層上面で掘削を終了した。Ⅲb層は堆積していないことが確認された。遺物は、I層から染付、Ⅲa層から縄文時代早期土器、黒曜石製チップが出土した。遺構は確認されなかった。

第2節 本調査

本調査は、令和元年度に実施した。調査対象表面積は4,215m²、延面積4,215m²であった。

調査に先立ち、南北方向を世界測地系座標X = -97370.000、Y = -61260.000と、世界測地系座標X = -97730.000、Y = -61260.000を結んだ線及びその延長線、東西方向を世界測地系座標X = -97370.000、Y = -61260.000と、世界測地系座標X = -97370.000、Y = -61260.000を結んだ線及びその延長線を中心として、調査区割り（以下グリッドという）を設定した。グリッドの区画は10m間隔で、北から南に1・2・3…、西から東にA・B・C…と呼称することとした。さらに、調査区を横断する市道を境に、南側（F～J－20～25グリッド）をA調査区、北側（E～L－13～21グリッド）をB調査区として調査を実施した（第7図）。また、B調査区は旧土地境や調査工程に応じて、便宜的にB-1～5

調査区に区分して調査を行った。

調査は、A調査区及びB-1・2・5調査区から開始し、最終的には全面調査を行った。A調査区は宅地跡であり、現代の擾乱が下層まで及んでいた。表土剥ぎを行った結果、部分的にⅢa層が残存していたもののごく限られた範囲であり、ほぼ表土下はV層またはVI層であった。A調査区は残存するⅢ層を人力で掘削したが、ほとんど遺物は出土しなかった。

調査の主体となったのはB調査区である。表土（耕作地・造成土）を重機で剥ぎ取った後、Ⅲ層上面で遺構精査を行い、その後、人力（山鉤、鋤籠、ねじり鎌、手鋤等の発掘道具）で掘削した。出土した遺物については、必要に応じて出土状況の記録写真撮影を行った後、原則として機械実測取り上げを行い、小片などは層ごとに一括で取り上げた。検出した遺構は人力で掘り下げ、調査の進捗に応じて検出状況・半截（埋土断面）状況・完掘状況等の写真撮影と図化作業（対象に応じて縮尺1:10・1:20）等の記録保存を実施した。遺構の図化作業は手実測を原則として行ったが、遺構の種別や遺物の出土状況に応じて一部は機械測量を行った。また、B-5調査区では掘削中に細石刃と思われる小片が出土したため、周辺土壤を篩がけし、小さい遺物の回収にも努めた。

さらに、下位のIV～VI層については部分的に先行トレンチや重機掘削による下層確認を実施した。下層確認の結果、遺物包含層は確認できず、基盤の堆積層が検出された。なお、人力掘削による調査は遺物・遺構が確認されたⅢ層を主体として、V層またはVI層上面（IV層が残存している場合はIV層上面）で調査を終了した。地形測量については、V層上面で実施した。

調査終了後は、重機による埋め戻しを行った。調査区外周は杭または鉄ビン及びトラロープで囲い養生した。

第3節 整理・報告書作成作業

令和2年度に発掘調査成果の整理及び報告書作成を行った。

図面整理は、遺構実測図、土層断面図等に仕分けし、台帳や遺物との照合を行った。

洗浄は、未洗い遺物や発掘現場で行った洗浄が不十分な遺物について行った。その際、遺物に付着している重要な情報を除去しないよう努めた。

注記は、洗浄終了後順次行い、山ノ段遺跡の略記号「YND」を頭に、「グリッド」「層」を記入した。さらに、機械測量を行った遺物には「取上番号」を、一括で取り上げた遺物には「一括」を併せて記入した。なお、小破片や器面の摩滅が著しいものについては注記を省略した。

分類・接合は、包含層出土遺物を機械測量で取り上げた遺物と一括で取り上げた遺物に分けた後、土器の胎土

や器種、文様等で分類して接合する方法をとった。その後、実測する土器片の個体抽出を行い、土器の外面の文様等を拓本で採取した。石器については、剥片石器と礫石器に分けた後、作業の効率化を図るために、一部石器実測委託を行った。

トレースは、遺構、土層断面についてはデジタルトレースで、遺物については外部委託も含めてペントレースで行った。

包含層出土の土器については、時代別、器種別、部位別、

特徴別の順で分類した後、レイアウトを行った。

石器については、時期判定が困難なものが多かった。上方からの流れ込みの可能性も高いことから、各層ごとの出土遺物として取り扱った。器種別に分類し、剥片石器、礫石器の順にレイアウトを行った。

図版については、発掘現場写真的抽出・レイアウト、遺物の抽出・レイアウト・写真撮影を行った。

文章の執筆・編集、図表作成終了後、印刷・製本を行った。



第7図 山ノ段遺跡調査区

第4節 層序

本遺跡の基本層序については、確認調査の基本層序を参考にしながら、地層の堆積状況と層厚の確認を行った。調査区は後世の耕作や宅地造成によって削平を受けた箇所が部分的に認められたため、地層の堆積・残存状態が良好なB-1調査区K-15・16グリッド付近の東壁及びB-2調査区E-18・19グリッド付近の西壁、B-5調査区K-13グリッド付近の北壁を基本とした。各層の詳細については以下のとおりである。

- I 層：造成土でコンクリートが混じる。
- II 層：畑耕作土でIII a層を削って堆積する。
- III a層：砂質土で、粘性・しまりはない。1~30cmの大の礫が混ざるが、土壤自体は均質で粒子が小さく、シルト質に近い。III a・III b層・アカホヤブロックが下位で混在するところもある。縄文時代主体の遺物を含む。
- III b層：砂質土で、粘性はなく、しまりは弱い。黒褐色を基本とし、地点によって明暗が若干異なる。
- III a層よりも3~5cmの大の礫が多く、砂利質が強い。面堆積をしておらず、帯状またはマーブル状に見られる。縄文時代主体の遺物を含む。
- IV a層：砂質シルトで、粘性・しまりが強い。礫をほとんど含まず、5~10mm大の砂利程度の小礫がまばらに入る。所々に下層と風化礫の影響で砂質が強いところがあるが、粘質がある。

IV b層：砂質シルトで、粘性・しまりが強い。IV a層よりやや色調が暗い。5mm大の風化礫やバミス状の砂粒が多い。

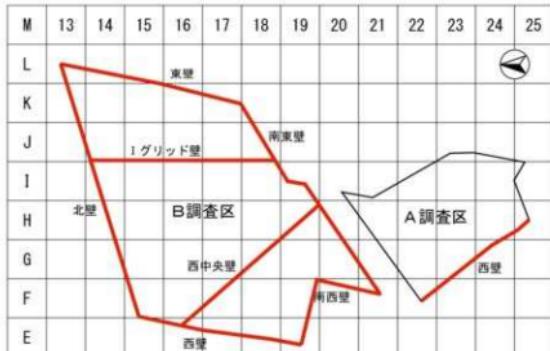
V 層：砂質土で、粘性・しまりはない。数cm~50cm大の礫を多量に含む。上位がIII a層かIII b層かによって色調が異なる。礫は風化により薄く剥がれる割れ方をし、一部赤化している。

VI 層直上ではより砂質が強い。

VI 層：基盤層で、粘性・しまりはない。礫とその風化した砂からなる。数cm~最大1.0m程の大型の礫を多量に含む。無遺物層。

第2表 基本層序

層名	色調・土質等	特徴	層厚(平均)
I層	造成土	表土(造成土)	15cm
II層	褐色土 砂質	表土(耕作土)	20cm
IIIa層	明褐色土 砂質	縄文時代主体の包含層	30cm
IIIb層	黒褐色土 砂質	縄文時代主体の包含層	15cm (部分残存)
IVa層	褐色粘質土 砂質シルト	—	30cm (部分残存)
IVb層	にぶい黄褐色粘質土 砂質シルト	—	30cm (部分残存)
V層	褐色~黒褐色 礫多い砂質	VI層の風化土	50cm
VI層	黄褐色~明黃褐色土 砂礫	基盤層(地山)	—



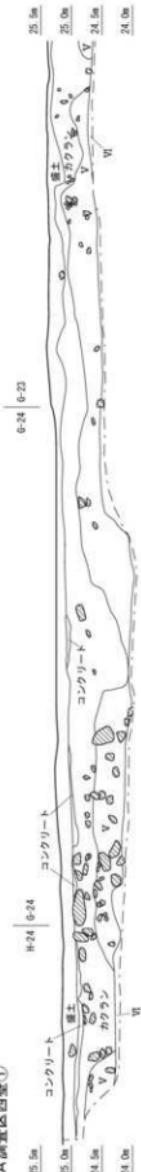
第8図 土層断面位置図



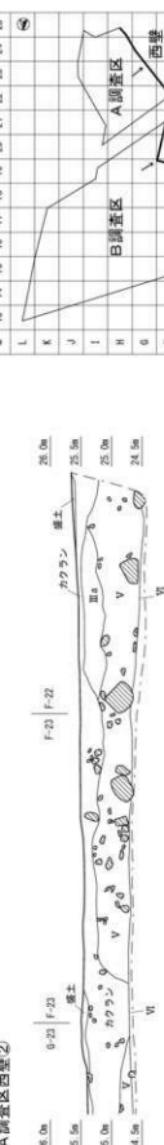
①K-13 北壁 ②F-16 西中央壁 ③L-14 東壁 ④E-18 西壁

B調査区土層断面

A調査区西壁①



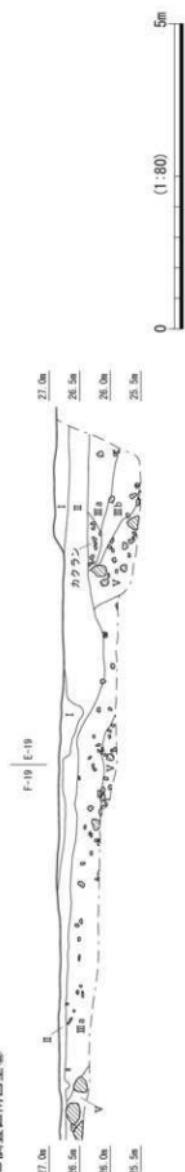
A調査区西壁②



B調査区南西壁①

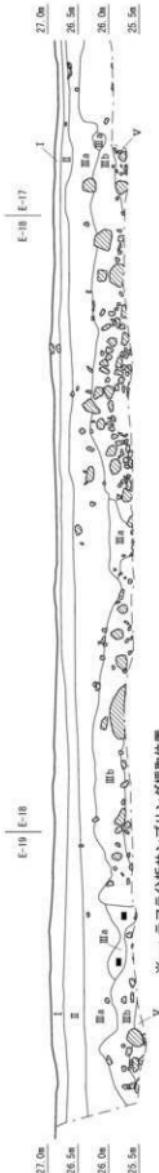


B調査区南西壁②



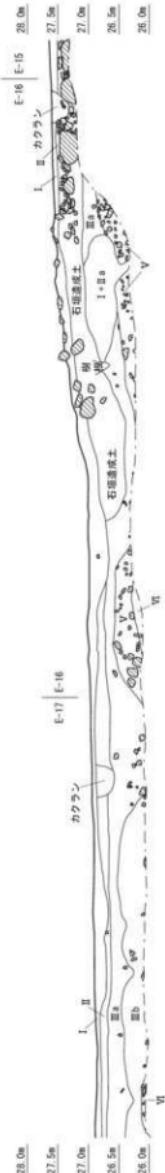
第9図 土層断面(1)

日調査区西壁①



※ ■ : テフラ分析サンプリング採取位置

日調査区西壁②



日調査区西壁③



第10図 土層断面(2)

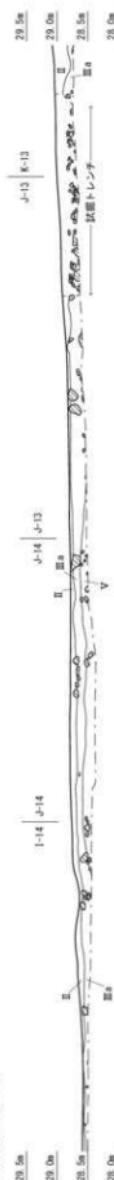
日調査区北壁①



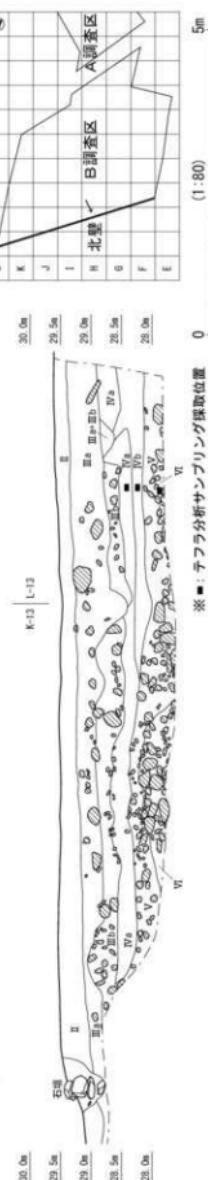
日調査区北壁②



日調査区北壁③



日調査区北壁④



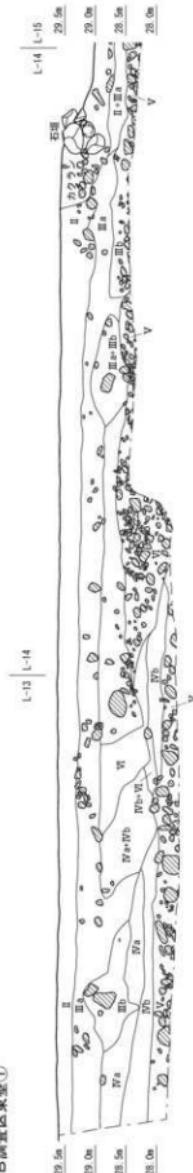
第11図 土層断面(3)

※■: テフラ分析サンプル採取位置

(1:80) 5m

第12図 土層断面(4)

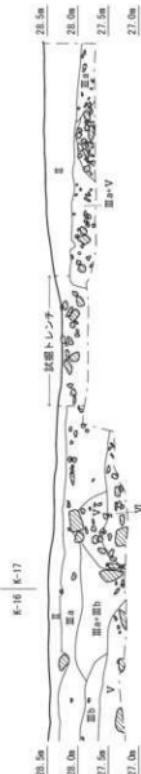
日調査区東壁①



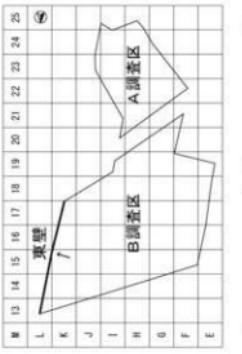
日調査区東壁②



日調査区東壁③



※ ■ - テフラ分析サンプリング採取位置

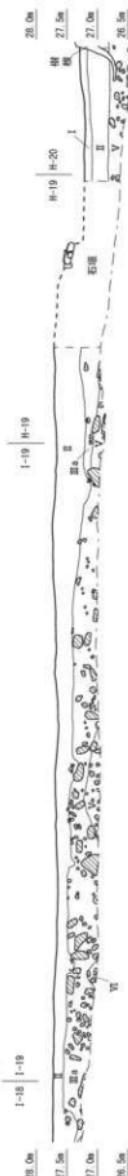


第13図 土層断面(5)

日調査区南東壁①



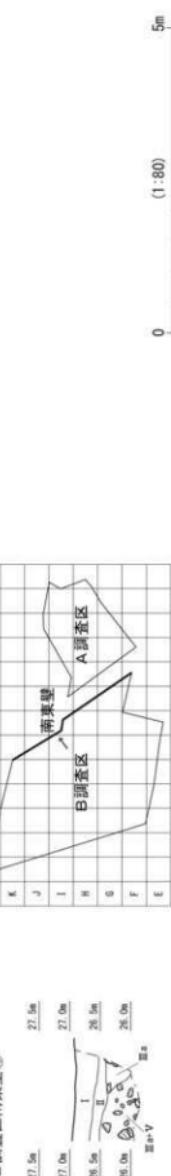
日調査区南東壁②



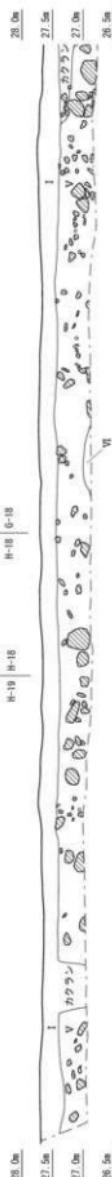
日調査区南東壁③



日調査区南東壁④



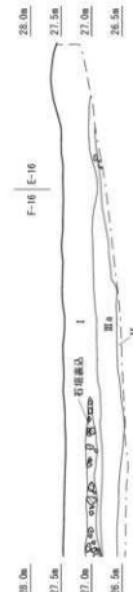
Ⅲ調査区西中央壁①



Ⅲ調査区西中央壁②



Ⅲ調査区西中央壁③



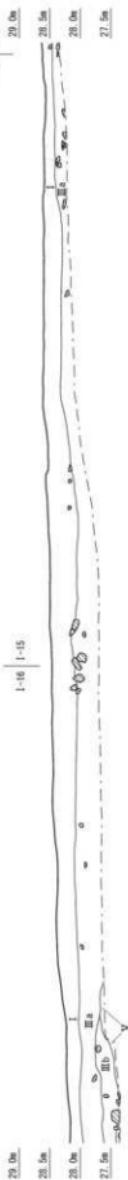
(1:80)
5m

第14図 土層断面(6)

日調査区1 グリッド壁①



日調査区1 グリッド壁②



日調査区1 グリッド壁③



(1:80)
5m

第15図 土層断面(7)

第IV章 発掘調査の成果

第1節 調査の概要

山ノ段遺跡は緩傾斜地に位置し、標高の高い場所から流れ込んだ大量の巨礫が、調査区全体に散在する。遺跡南部のA調査区は宅地跡のため、現代の擾乱が下層までおよび、包含層は部分残存で遺物は出土しなかった。遺跡北部のB調査区は、東から西へと緩やかに傾斜する。現代の土地境の石垣や植栽による擾乱を受けているが、多くの遺物が出土した。

遺構は、B調査区から炭化物集中1基、埴土集中1基、硬面2条が検出した。しかし、共伴する土器が小片であったため、明確な時期を検討することはできなかった。

遺物は、出土範囲がB調査区東側に集中し、西側へと帶状に広がる。遺物包含層はⅢa・Ⅲb層で、縄文時代の遺物が中心である。しかし少量ではあるが、旧石器時代や弥生時代以降の遺物も確認できる。また遺物包含層以外の層でも、縄文時代の遺物が混ざって出土する。土器は個体でまとまらず、摩耗した破片で出土する場合が多かった。石器は詳細な時期比定は層位から困難であ

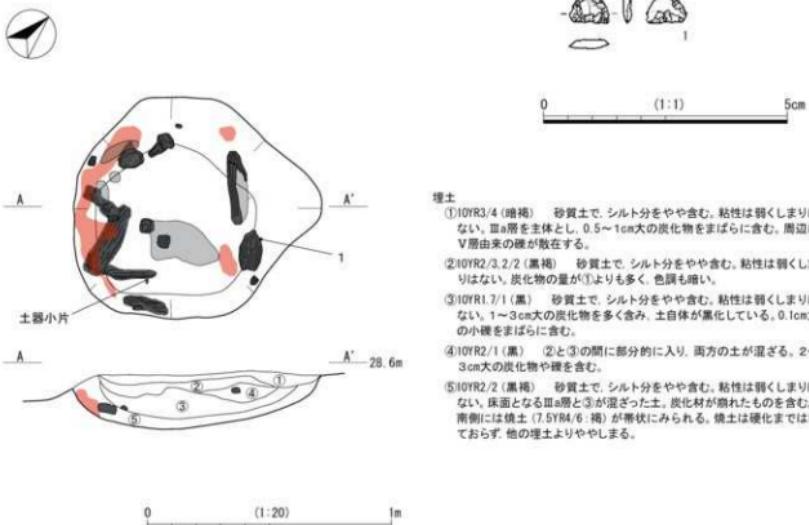
るが、出土する土器の時期や石器の形状から、縄文時代早期に帰属すると想定される。

第2節 遺構（第16図～第18図）

1 炭化物集中（第16図）

B調査区北東部のⅢa層上面から若干掘り下げたところで、円形の土坑状の窪みに炭化材がまとまった状態で検出した。直径約90cm、深さは20cm程度である。床面付近には大型の炭化材が残存しており、周囲には焼土が帶状に検出された。

遺物は、土器と石器が1点ずつ出土した。土器は小片のため型式が判断できず、國化に至らなかつた。1は、OBIA類を素材とする小型石器である。埋土①から出土した。正三角形状を呈し、基部に抉りをもたない。両脚部先端は、角を落としたような形状である。先端部はわずかに欠損するが、表面の両側縁に押圧剥離を施す。裏面は主要剥離面を残し、右側縁に押圧剥離を施す。



第16図 炭化物集中・出土遺物

2 焼土集中（第17図）

炭化物集中よりやや東側の、現代の土地境である石垣及び植栽の下から検出した。長軸約3.5m、短軸約1.0m程度である。遺構北側の範囲に焼土ブロックが点在し、周辺に炭化物も散乱する。しかし、石垣構築時の造成土や植栽による樹痕の影響で遺構上部は擾乱されており、掘り込みラインは不明瞭である。床面の形状も不整形であるため、焼土や炭化物が原位置を保っているか不明である。また、周間にピットが3基みられるが、掘り込みが不整形で浅いため、遺構に関連するものか不明である。

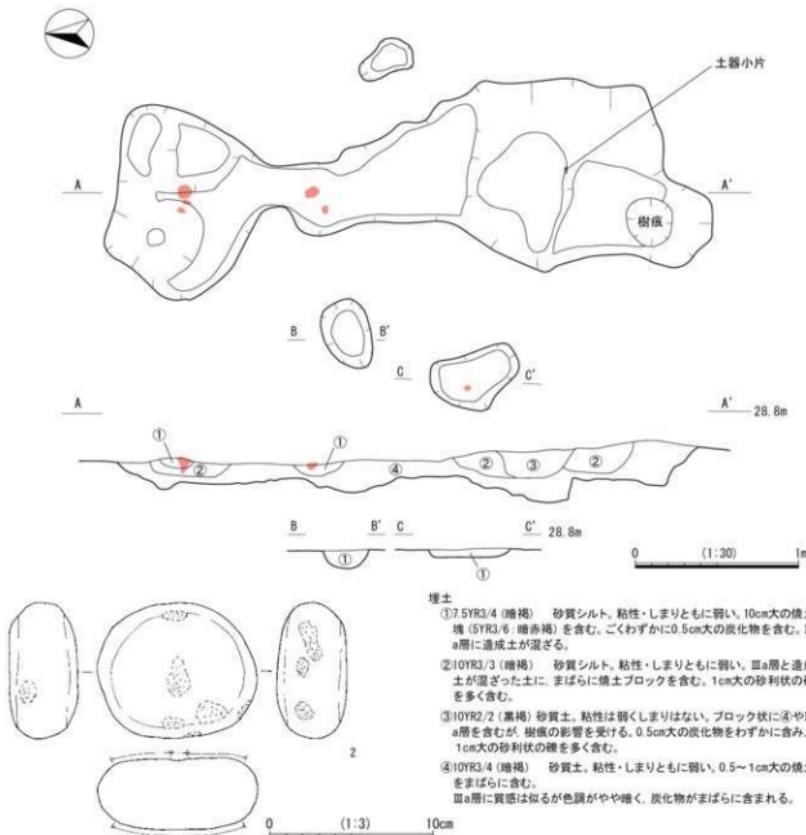
遺物は、土器と磨歓石が1点ずつ出土した。土器は小片のため型式が判断できず、図化に至らなかった。2は、

AN2類を素材とする磨歓石である。遺構内に流れ込んだ礫の中から出土した。表面ともに磨面を有し、表面中央に敲打による凹みがみられる。側面にも使用による敲打痕がみられる。

3 硬化面1・2（第18図）

B調査区北東端の、Ⅲa層中位で2条並んで検出した。どちらも長軸約2.5m、短軸約1.5mだが、形状は不整形である。しまりや粘性はやや強いものの、通常検出される硬化面よりも軟質である。

関連する遺物は出土しなかった。



第17図 焼土集中・出土遺物

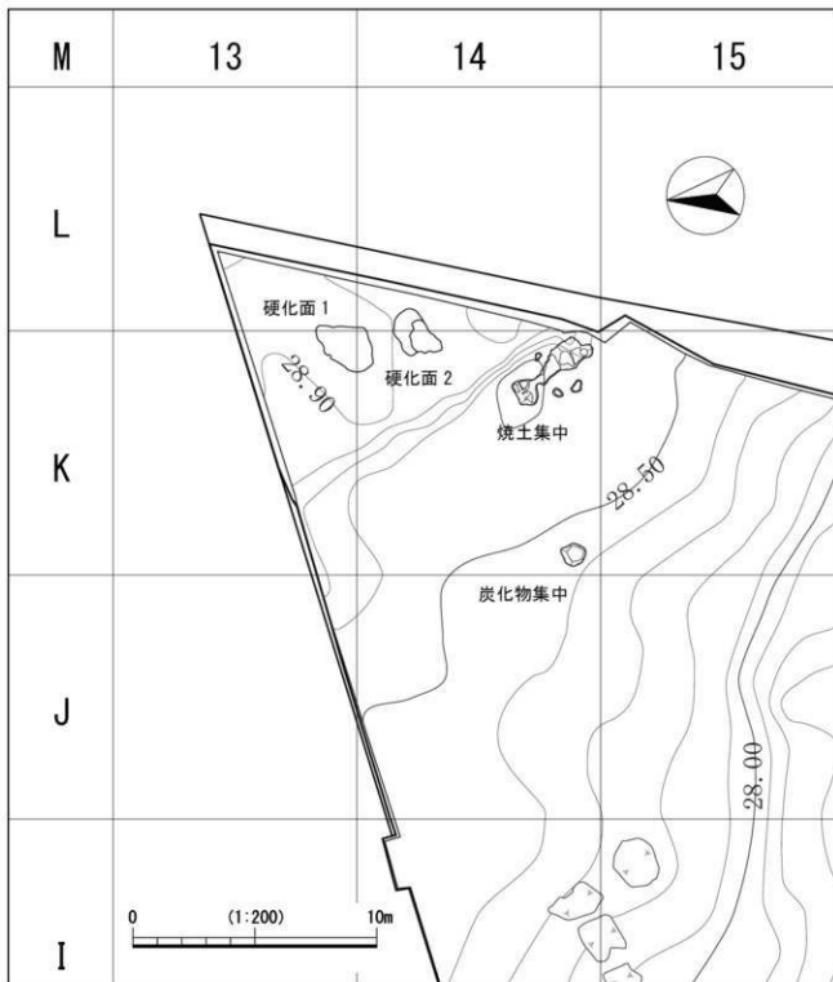
堆土

①7.YR3/4(暗褐色) 砂質シルト。粘性・しまりともに弱い。10cmの大塊土塊(SYR3/6・暗赤褐色)を含む。ごくわずかに0.5cmの大炭化物を含む。Ⅲa層に造成土が混ざる。

②10YR3/1(暗褐色) 砂質シルト。粘性・しまりともに弱い。Ⅲa層と造成土が混ざった土に、まばらに焼土ブロックを含む。1cmの大砂利状の礫を多く含む。

③10YR2/2(黒褐色) 砂質土。粘性は弱くしまりはない。ブロック状に④やⅢa層を含むが、樹木の影響を受ける。0.5cmの大炭化物をわずかに含み、1cmの大砂利状の礫を多く含む。

④10YR3/4(暗褐色) 砂質土。粘性・しまりともに弱い。0.5~1cmの大塊土塊をまばらに含む。Ⅲa層に質感は似るが色調がやや暗く、炭化物がまばらに含まれる。



第18図 遺構配置図

第3表 遺構内遺物観察表

挿図番号	掲載番号	器種	石材	出土区	層位	法量				取り上げ番号	備考
						最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)		
16	1	石礫	OBIA	K-14	埋土①	0.80	0.80	0.15	0.11	—	先端部欠損
17	2	磨礲石	AN2	K-14	—	9.80	8.30	4.20	496.00	—	

第3節 土器（第19図～第38図）

土器は、主にⅢa・Ⅲb層から出土する。しかし小規模な土石流や擾乱の影響を受けた土地であるため、他の層からも出土する。また、これらの影響により大半は摩耗した破片資料で、完形復元できるものや、全体の器形をうかがうことができる土器はみられなかった。

発掘調査の結果、本遺跡から出土した土器は840点で、そのうち194点を掲載する。本書では、それぞれの器形や器壁の厚さ、施文方法、施文範囲の特徴から、I類～XV類に分類を行った。主体となるのは縄文時代早期の貝殻文系土器で、その中でもIV類土器が最も多く出土した。次いでI類土器や、文様をもたないV類土器が多くみられる。また、縄文時代前・後～晚期、弥生時代以降の土器も少量ずつ出土する。

分類基準の詳細は、以下の通りである。

I類

器形が円筒形もしくは角筒形で、器壁が薄手の土器である。口縁部が直行もしくは外傾し、角筒形のものでは波状口縁となるものがみられる。口唇部に平坦面を有し、平坦面にキザミを施すものもある。口縁部外面に貝殻刺突文や楔形貼付文を施し、胴部外面は幅の広い浅めの貝殻条痕と貝殻刺突文を重ねて施す。

器形を基準に、以下の2通りに細分した。

I-1類

胴部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる円筒形の土器である。

I-2類

底部から胴部にかけて、直線的に立ち上がる角筒形の土器である。

II類

口縁部が外反する円筒形の器形で、器壁が薄手の土器である。平坦にした口唇部にキザミを施す。口縁部外面に貝殻刺突文や貝殻押引文、楔形を呈する密接な貝殻刺突文を施す。胴部外面にも貝殻刺突文や押引状の貝殻条痕を施す。

III類

胴部から口縁部にかけて、直線的もしくは外傾しながら立ち上がる器形の土器である。口縁部外面に貝殻刺突文を施し、胴部外面に斜位及び鞍形状の貝殻条痕を全体的に施す。

IV類

胴部から口縁部にかけて、直線的もしくは外傾しながら立ち上がる器形で、器壁は比較的厚手である。口唇部にキザミや貝殻刺突を施すものがある。口縁部外面の上

部に貝殻刺突文を施して、文様帶を形成する。胴部外面に貝殻条痕が確認できるものがあり、その他はナデ調整をおこなう。

口縁部文様帶の範囲や施文方法、胴部の調整法を基準に、以下の8通りに細分した。

IV-1類

口縁部文様帶に縦位及び斜位の貝殻刺突文を施し、その下位に横位及び斜位の貝殻条痕が確認できるものである。

IV-2類

口縁部文様帶に縦位の貝殻刺突文を施し、口唇部や口唇部外側にキザミが確認できるものである。

IV-3類

口縁部文様帶に縦位の貝殻刺突文を施すものである。口縁部文様帶の範囲は、幅が狭いものと広いものみられる。

IV-4類

口縁部文様帶に縦位の貝殻刺突文を押引状に施すものである。

IV-5類

口縁部文様帶に幅の広い縦位の貝殻刺突文を連続的に密に施することで、帯状を呈するものである。

IV-6類

口縁部文様帶に横位の貝殻刺突文を数条施すものである。貝殻の単位を残した刺突文や、貝殻腹縁による条線状の刺突文などが確認できる。

IV-7類

口縁部外面から胴部にかけて、横位及び縦位の貝殻条痕を重ねて施すものである。

IV-8類

口縁部外面に斜位の貝殻刺突文や、工具による刺突文を施すものである。

V類

やや開き気味に立ち上がる器形である。外面全体に貝殻刺突文を施す。

VI類

口縁部は直線的に立ち上がり、胴部から底部にかけてややすぼまる器形である。口縁部外面に工具刺突文や爪形状刺突文を施すもの、短い貝殻条痕や浅い沈線を施すものがある。

VII類

口縁部は外側へ開き、胴部から底部へ直線的もしくはゆるやかにすぼまる器形である。外面は沈線文や網目撲糸文を施す。

V類

口縁部は直線的もしくはやや開きながら立ち上がり、胴部から底部にかけてすぼまる器形である。器壁は厚く、外面は貝殻条痕や沈線を施すものや、ナデ調整をおこなうものがある。

IX類

平底を呈する底部で、縄文時代早期に該当するものである。

X類

直線的に立ち上がる器形で、口唇部や口縁部外面に横位の隆起線文や沈線文を施すものである。

XI類

直線的に立ち上がる器形で、外面に沈線文を施すものである。

XII類

直線的に立ち上がる器形で、外面に貝殻刺突連点文を施すものである。

XIII類

口縁部外側を肥厚させ、そこへ貝殻刺突文や沈線文を施し文様帶を形成するものである。

XIV類

底端部が張り出し、織物圧痕が残るものである。

XV類

器形が深鉢形もしくは浅鉢形で、器壁の薄いものである。縄文時代晩期に該当する。

器形と調整を基準に、2通りに細分した。

XV-1類

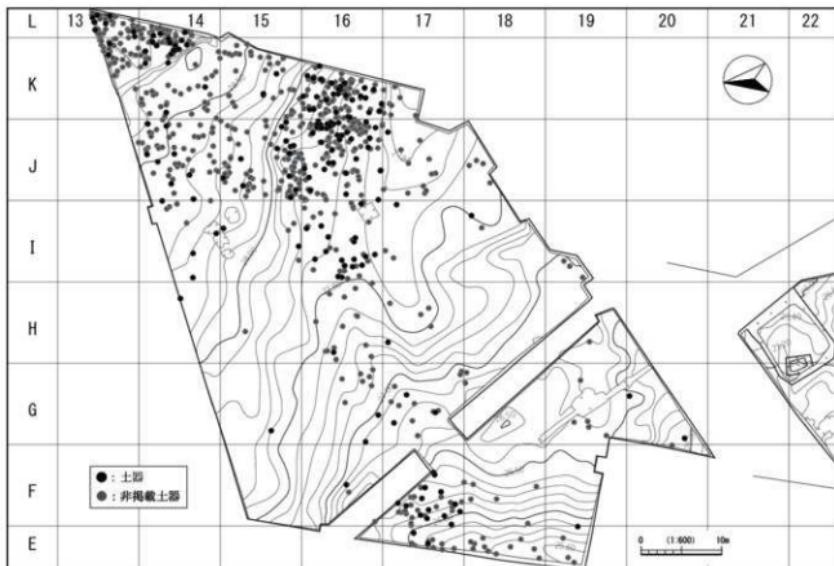
直線的もしくは開きながら立ち上がる深鉢形の土器で、内外面に条痕やナデ調整をおこなうものである。

XV-2類

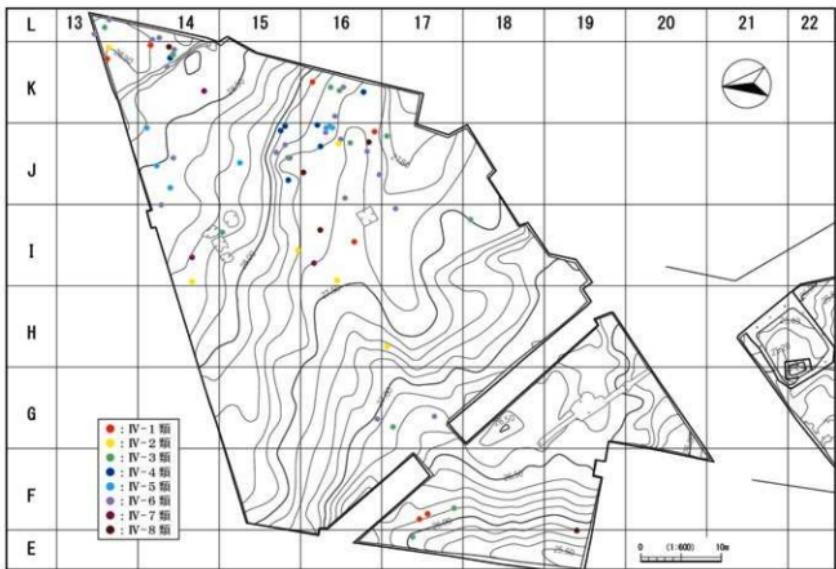
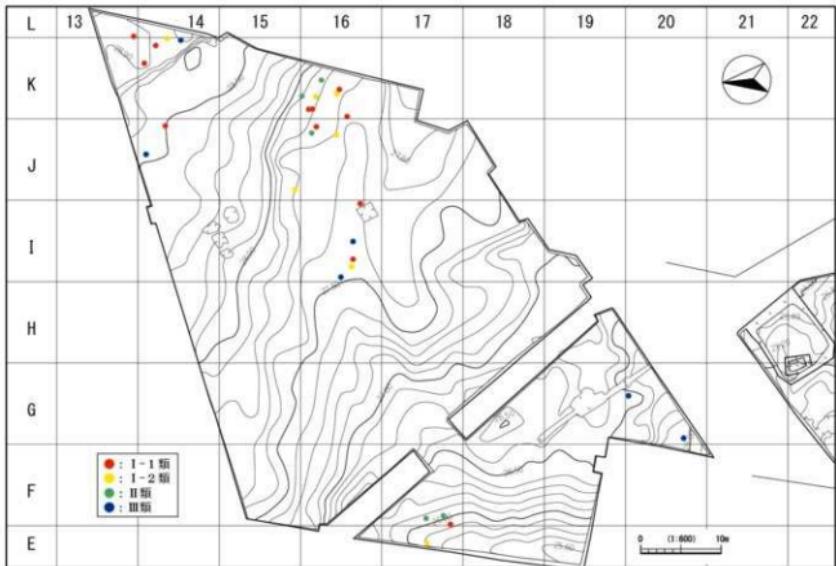
口縁部や胴部が強く屈曲する浅鉢形の土器で、内外面ともに丁寧なナデ調整やミガキをおこなう。

XVI類

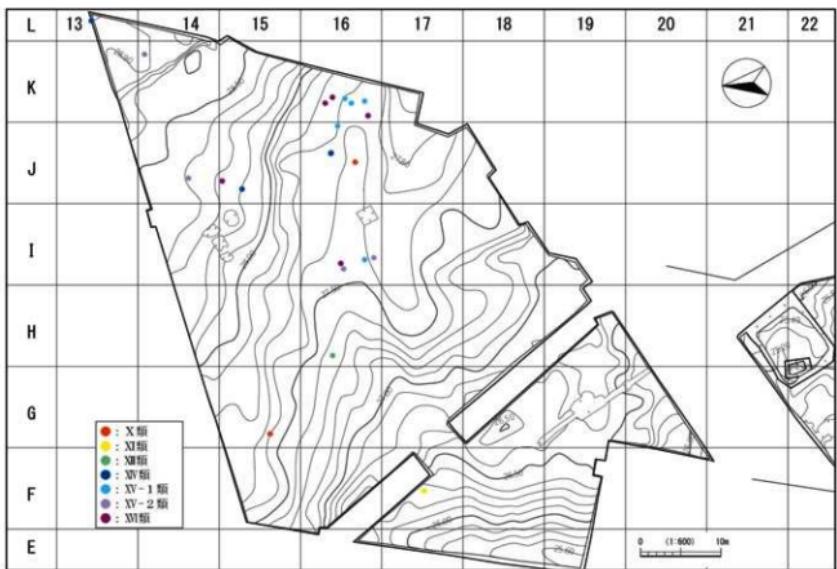
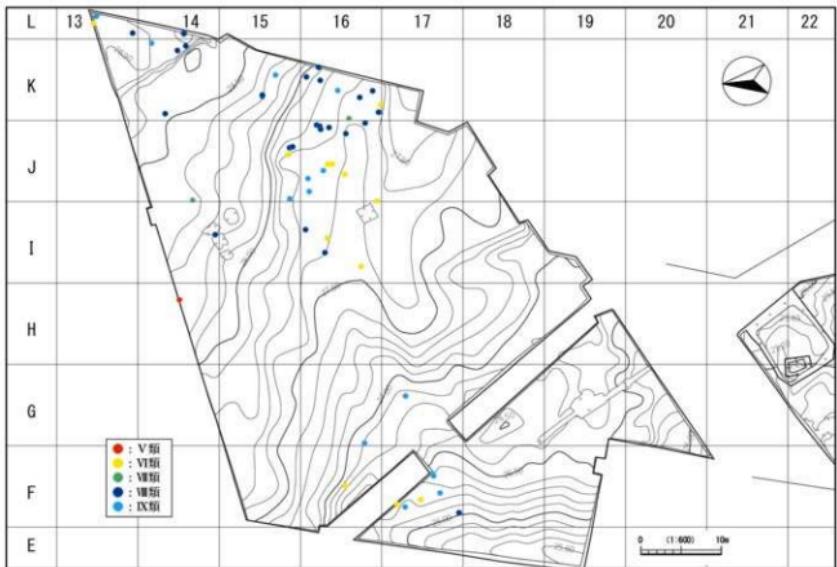
器種は甕・壺・壺などで、弥生時代以降の土器に該当するものである。



第19図 土器出土状況



第20図 I~III類土器、IV類土器出土状況



第21図 V~IX類土器, X~XIII類土器出土状況

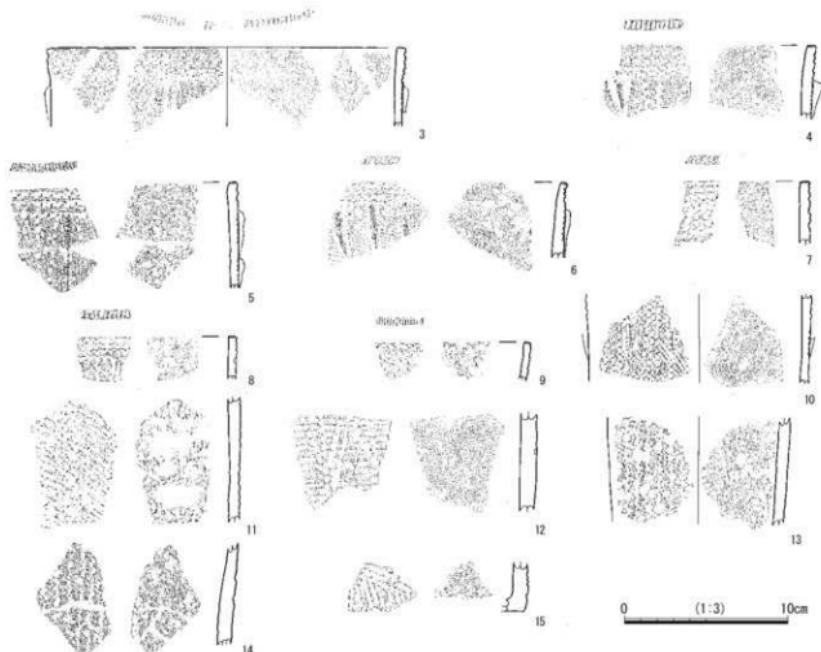
I類土器（第22図3～第23図24）

I-1類（第22図3～15）

3～9は口縁部で、口唇部を平坦にしてキザミを施す。3・4は外面を丁寧なナデもしくは貝殻条痕で調整した後、口唇から2cm幅の間に貝殻刺突文を4～5条施し、縦位及び斜位の貝殻刺突文を施す。また、短めの楔形貼付文を施し、両側を貝殻で刺突する。内面調整はナデをおこなう。5は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を3条施し、その下位に縦位及び斜位の貝殻刺突文を施す。また、楔形貼付文を2段施し、両側を貝殻で刺突する。内面調整は粗いナデをおこなう。6は口唇から1cm幅の間に横位の貝殻刺突文を施し、区画線を引く。その下位には、横位の貝殻条痕を施した後、長めの楔形貼付文を施し両側を貝殻で刺突する。内面調整はナデをおこなう。7は口唇部外面を面取りする。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を4条施し、その下位に縦位及び斜位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。8・9は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を4条施し、その下位に縦位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。

10～14は胴部である。10は胴部外面に斜位の貝殻条痕を施した後、縦位の貝殻刺突文と短めの楔形貼付文で区画し、その間に縦位の貝殻刺突文を3条施す。なお、楔形貼付文の両側を貝殻で刺突する。内面調整は粗いナデをおこなう。11は胴部外面に幅の広い斜位の貝殻条痕を施した後、縦位の貝殻刺突文を4条1単位で施す。内面は剥落が激しいが、ナデ調整が確認できる。12は他と比較してやや厚い。胴部外面に幅の広い横位の貝殻条痕を施した後、縦位及び斜位の貝殻刺突文を3条1単位で「Y」字状に施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。13は胴部外面が全体的に剥離・摩耗しているが、斜位の貝殻条痕を施した後、縦位の貝殻刺突文を施しているのが確認できる。内面調整はナデをおこなう。14は胴部外面に縦位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなうが、一部剥離している。

15は底部である。底部から胴部へと直線的に立ち上がり、底部と胴部の境界に貝殻刺突文を施す。胴部外面には縦位の貝殻条痕を施した後、斜位の貝殻条痕を施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。



第22図 I-1類土器

I-2類 (第23図16~24)

16・17は口縁部で、口唇部を平坦にしてキザミを施す。16は口縁部が波状を呈する。外面は丁寧なナデ調整をおこなった後、口縁部の形状に合わせて、1.5cm幅の間に横位の貝殻刺突文を4条施す。その下位に縦位の貝殻刺突文を施し、さらに楔形貼付文を施して両側を貝殻で刺突する。内面調整は丁寧なナデをおこなう。17は口縁部が角へ向かって波状を呈する。外面は、口縁部の形状に合わせて1cm幅の間に横位の貝殻刺突文を施す。その下位に縦位の貝殻刺突文と楔形貼付文を施し、楔形貼付文の両側を貝殻で刺突する。角にも同様に楔形貼付文を施す。内面調整はナデをおこなう。

18~22は胸部で、角が残るものもある。18は角が丸みをもち、角に向かって器壁が厚くなる。胸部外面に斜位の貝殻条痕を浅く施した後、縦位の貝殻刺突文を施す。内面調整は粗いナデをおこなう。19は角がやや丸みを帯びる。胸部外面にナデ調整をおこなった後、縦位の貝殻刺突文を施す。内面調整は粗いナデをおこなう。20は角に向かって器壁が薄くなる。胸部外面に斜位の貝殻条痕を施した後、縦位の貝殻刺突文を施す。角にも綿密に貝殻刺突を施す。内面調整は粗いナデをおこなう。21は角部分が肥厚し、内面が丸みを帯びる。胸部外面に縦位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。22は胸部外面に斜位の貝殻条痕を浅く施した後、縦位及び斜位

の貝殻刺突文を施す。内面調整は粗いナデをおこなう。

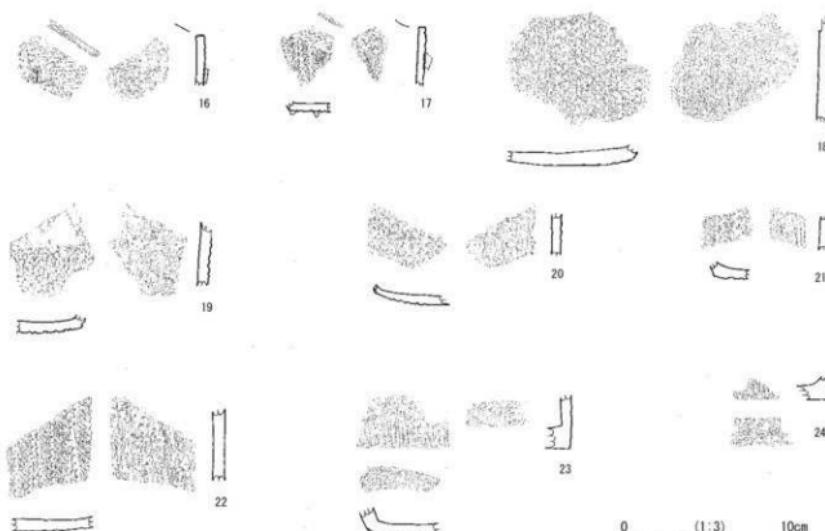
23・24は底部で、器壁は胸部より底部が厚くなる。23は底部から胴部へと直線的に立ち上がり、底面は平底となる。胴部外面に縦位の貝殻条痕を施し、底端部には浅い貝殻刺突を施す。内面調整はナデをおこなう。24は平底で、胴部がわずかに開く器形となる。底端部は角をもつが、内面は丸みをもって立ち上がる。胴部外面に、縦位の貝殻条痕が確認できる。内面調整はナデをおこなう。

II類土器 (第24図25~28)

25~27は口縁部で、口唇部を平坦にしてキザミを施す。25は口唇部にロッキング状のキザミを施す。口縁部外面に口唇部と同様の施文をおこなった後、横位の貝殻刺突文を2条、貝殻押引文を1条、その下位に横位の貝殻条痕を施す。内面調整はヘラケズリ状のナデをおこなう。

26は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を3条施し、そこから4cmの単位で押引状の貝殻刺突文を施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。27は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施す。その下位に縦位の貝殻刺突文を密接に施すことで、模状を呈する。内面調整は丁寧なナデをおこなう。

28は胴部である。外面に横位の貝殻刺突文及び押引状の貝殻条痕を施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。



第23図 I-2類土器

III類土器（第24図29～33）

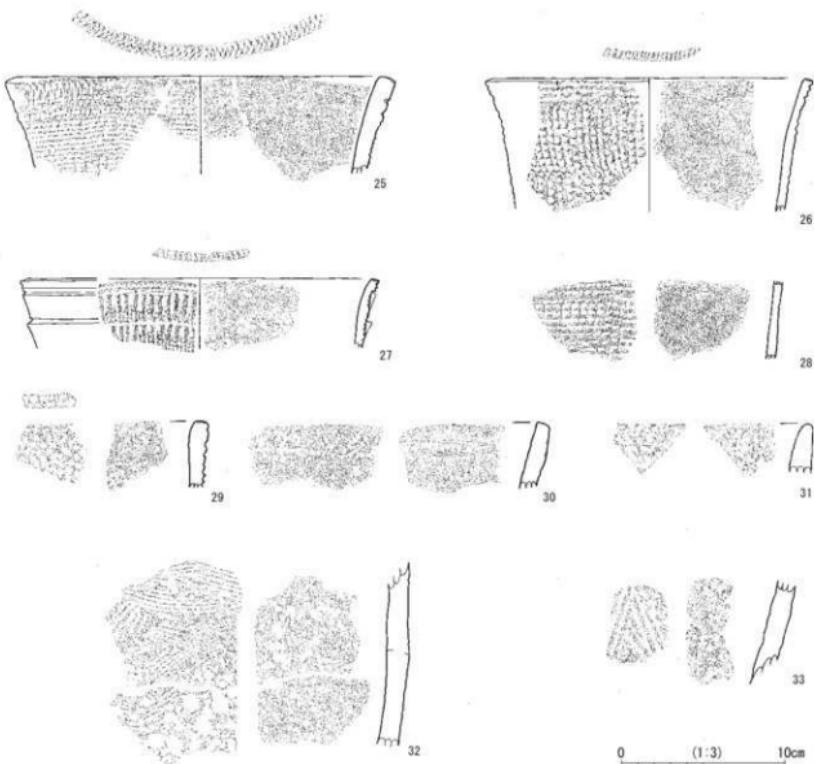
29～31は口縁部である。29・30は、口唇部に平坦面をもつ。29は口縁部が直線的に立ち上がり、上部でわずかに外反する。口唇部に浅い貝殻刺突を施す。内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなった後、口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施し、その下位に斜位の貝殻刺突文を羽状に施す。30は口縁部が開きながら立ち上がる。口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を施し、その下位に横位の貝殻刺突文を1条めぐらせる。胴部外面に斜位の貝殻条痕が確認できる。内面調整はケズリ状のナデをおこなう。31は口縁部がわずかに開き気味に立ち上がり、口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。

32・33は胴部である。外面に斜位の貝殻条痕を棱杉状に施すも、規格性に乏しい。内面調整はナデをおこなう。

IV類土器（第25図34～第31図107）

IV-1類（第25図34～41）

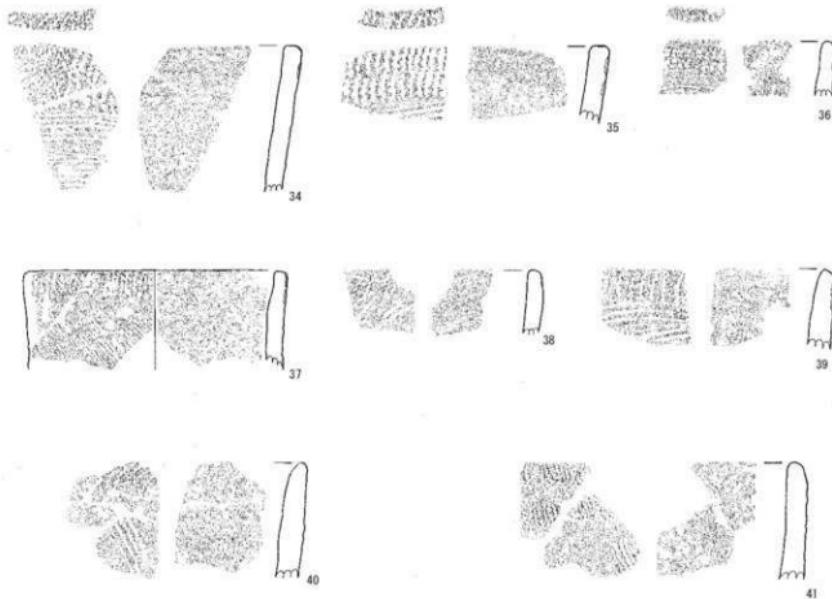
34・35は口唇部を平坦にし、斜位の貝殻刺突を深く施す。口縁部外面に縱位の貝殻刺突文を2段施し、胴部に横位の貝殻条痕を施す。内面調整はナデをおこない。34は口唇部直下に浅い段をもつ。36は丸みを帯びた口唇部の外側に浅いキザミを施す。口縁部外面に縱位の貝殻刺突文を押引状に施し、その下位に横位の貝殻条痕を施す。内面調整はナデをおこなう。37は口唇部を平坦にし、内面の口縁部付近にゆるやかな段をもつ。内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなった後、口縁部外面に縱位の貝殻刺突文を密に1段施し、その下位に斜位の貝殻条痕を施す。38は口唇部にやや丸みを帯びた平坦面をもつ。口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を1段施し、その下位に斜位



第24図 II・III類土器

の貝殻条痕をまばらに施す。内面調整はナデをおこなう。39は口唇部外側に斜めの面をもつ。口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を1段施し、その下位に横位の貝殻条痕を施す。内面調整はナデをおこなう。40は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を1段施す。内面調整はナデをおこなう。41は口唇部に丸みをもつ。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を1段施す。その下位に斜位の貝殻条痕を1条施す。42は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を2段施す。43は口唇部に丸みをもつ。口縁部外側に貝殻刺突を施す。口縁部外面は摩耗するが、縦位の貝殻刺突文を2段施しているのが確認できる。内面調整は丁寧なナデをおこなう。44は口唇部

に丸みをもつ。全体的に摩耗しているが、口唇部外側から口縁部外面にかけて短い貝殻刺突文を施し、その下位に縦位の貝殻刺突文を1段施しているのが確認できる。45は開き気味に立ち上がり、上部でわずかに外反する。口唇部に丸みをもち、口唇部外側に貝殻刺突を施す。口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を密に3段施し、その下位及び内面調整は丁寧なナデをおこなう。46は口唇部に平坦面をもち、浅い貝殻刺突を施す。口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を密に2段施す。内面調整はナデをおこなう。47は口唇部に平面をもち、口唇部外側に貝殻刺突を施す。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を2段施す。48は口唇部に平面をもち、貝殻刺突を密に施す。口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を1段施し、その下位にも1段目と互い違いになるように縦位の貝殻刺突文を施す。内面調整はへラ状のナデをおこない、口唇部直下に浅い段をもつ。口唇部から約3cm下に補修孔があり、斜方向からの穿孔の痕跡が残る。



第25図 IV-1類土器

IV-3類 (第27図49~62)

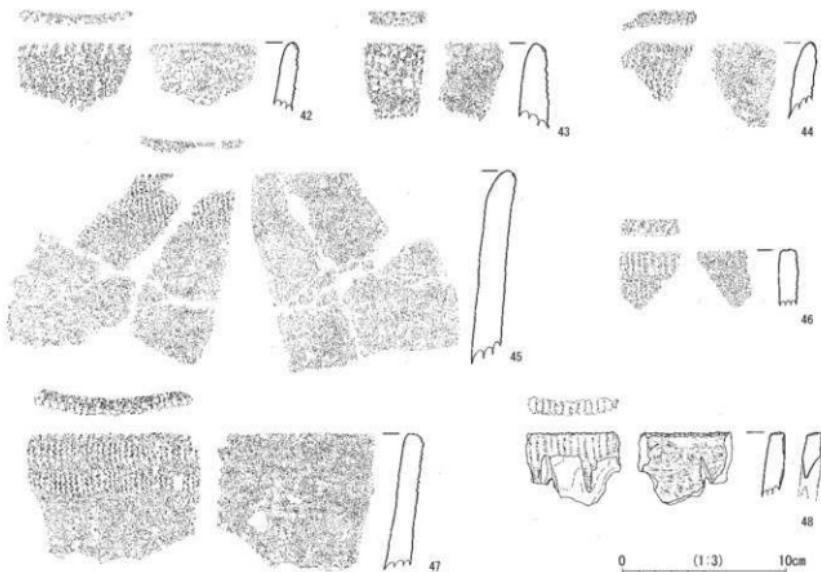
49~58は、口縁部外面に貝殻刺突文を1段施すものである。49・50は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に短い斜位の貝殻刺突文を施す。脣部外面及び内面調整はナデをおこなう。51は口唇部にやや丸みを帯びた平坦面をもつ。口唇部外側から口縁部外面にかけて短い斜位の貝殻刺突文を施すが、内外面ともに摩耗が激しく詳細は不明である。52は口唇部に平坦面をもつ。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に短い縱位の貝殻刺突文を施す。53は口唇部に丸みをもつ。内外面ともにやや摩耗するが、縱位の貝殻刺突文やナデ調整が確認できる。口唇部から約1.5cm下に小さな穿孔を施す。54は口唇部に丸みをもつ。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に縱位の貝殻刺突文を施す。55は口唇部に丸みをもち、口唇部外側をナデで面取りする。口縁部外面に縱位の貝殻刺突文を施し、一部押引状を呈する。内面は剥離しているため、調整は不明である。56は口唇部に平坦面をもつ。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を施す。57は口唇部に丸みをもち、内側にゆるい段をもつ。口唇部外側から口縁部外面にかけて縱位の貝殻刺突文を施し、その下位に一部重なるように斜位の貝殻刺突文を施す。口縁部文様帶

と脣部の境に、横位の貝殻刺突文を1条めぐらせる。内面調整はナデをおこなう。58は口唇部に丸みをもつ。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に縱位の貝殻刺突文を施す。

59~62は、口縁部外面に貝殻刺突文が2段確認できるものである。59は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に短い斜位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。60・61は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に斜位及び縱位の短い貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。62は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に短い縱位の貝殻刺突文を狭い間隔で1段、その下位に長い縱位の貝殻刺突文を広い間隔で1段施す。内面調整はナデをおこなう。

IV-4類 (第28図63~69)

63~66は口縁部である。63は口縁部付近が直行し、底部にかけてすぼまる器形を呈する。口唇部にやや丸みをもつ。口縁部外面に短い斜位の貝殻刺突文を押引状に3段施す。内外面ともにナデ調整をおこなう。64は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に押引状の斜位の貝殻刺突文が3段確認できる。内面調整はナデをおこなう。65は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を



第26図 IV-2類土器

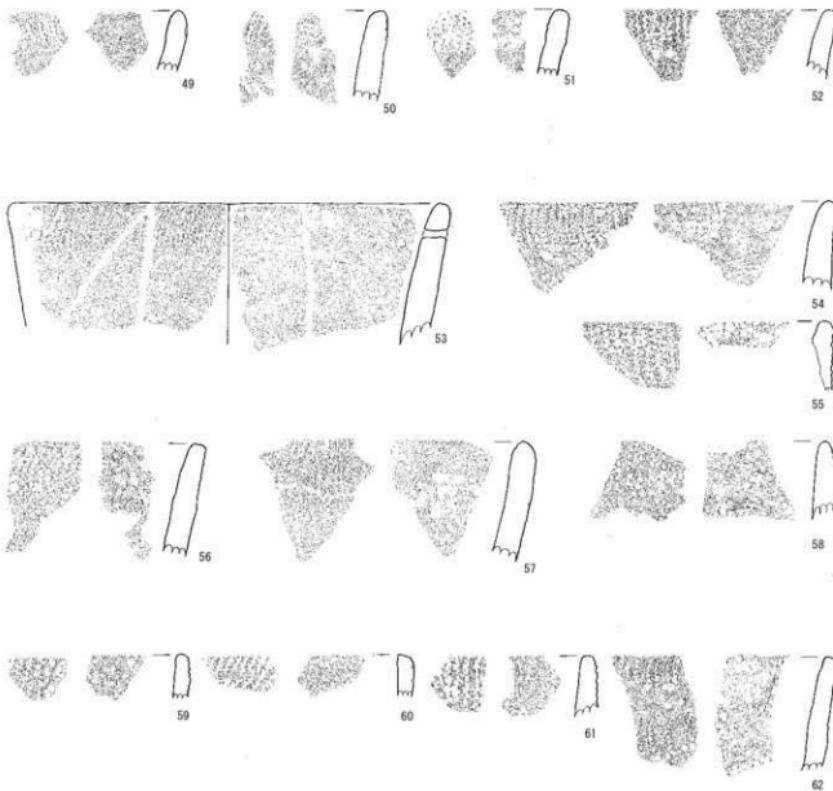
押引状に4段施す。66は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に短い縦位の貝殻刺突文をやや押し引きながら3段施す。内外面ともに摩耗するが、丁寧なナデ調整が認められる。

67～69は口縁部に近い脣部である。67は外面に貝殻刺突文を押引状に施し、内面に工具によるハケ目状のナデ調整が残る。68は内外面ともにナデ調整をおこなった後、外面上部に縦位の貝殻刺突文をやや押し引きながら3段施す。69は外面上部に貝殻刺突文を押引状に施し、その下位に丁寧なナデ調整が認められる。内面は剥落しており詳細は不明である。

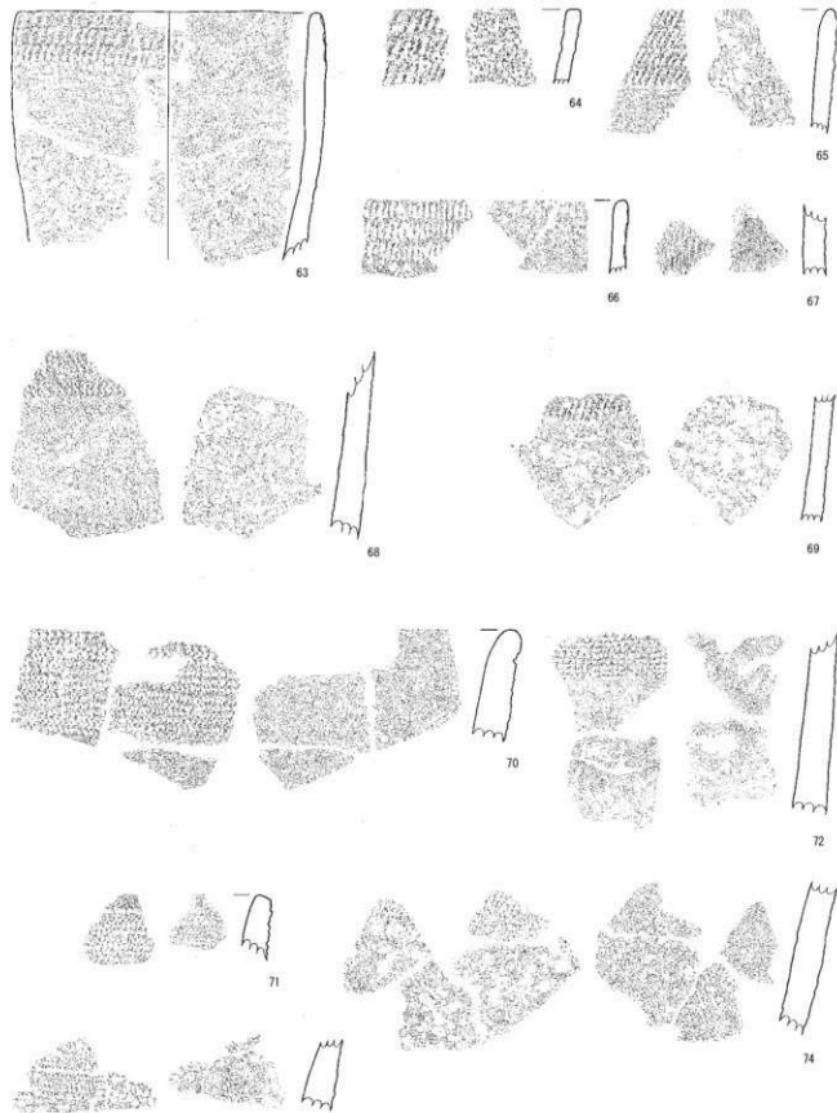
IV-5類 (第28図70～74)

70・71は口縁部で、外面上部に貝殻刺突文を連続的に密に施す。70は直線的に立ち上がり、上部でわずかに外反する。口唇部に丸みをもち、口縁部外面に6cmの幅で貝殻刺突文を施す。脣部及び内面調整はナデをおこなう。71は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面上部に横位の短沈線を施し、その下位に斜位の貝殻刺突文を施す。内面調整はミガキ状の丁寧なナデをおこなう。

72～74は口縁部に近い脣部で、外面上部に貝殻刺突文を連続的に密に施す。外面下部及び内面の調整は、72・73は丁寧なナデを、74はナデをおこなう。



第27図 IV-3類土器



第28図 IV-4・5類土器

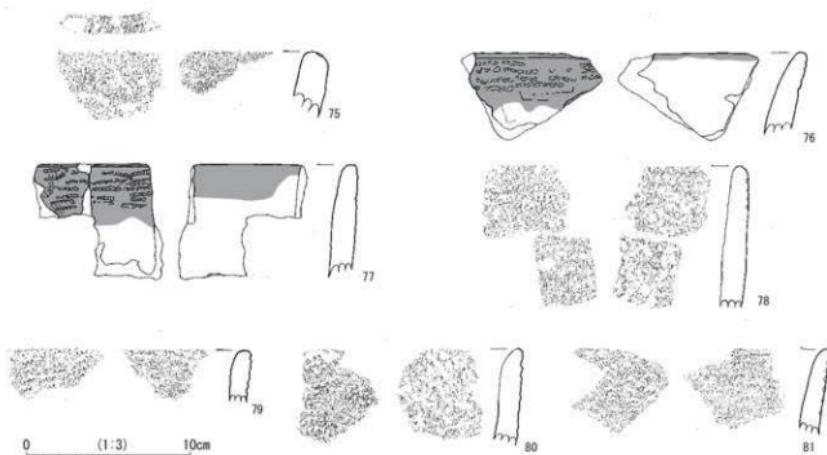
IV-6類（第29図75～第30図6）

75～81は、口縁部外面に単位を残した横位の貝殻刺突文を施す。75は口唇部にやや丸みを帯びた平坦面をもち、口唇部外側にキザミを施す。76は口唇部に丸みをもち、口縁部が外反する。口縁部外面に2cm幅の間で横位の貝殻刺突文を断続的に4条施す。胴部及び内面調整はナデをおこなう。77は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に2.5cm幅の間で横位の貝殻刺突文を断続的に6～7条施す。内面は剥離が目立つ。なお、76・77は口縁部付近に煤が付着している。78は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に2.5cm幅の間で横位の貝殻刺突文を4条施す。胴部及び内面調整はナデをおこなう。79は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に細かい横位の貝殻刺突文を断続的に6条施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。80は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面はナデ調整をおこなった後、横位及び斜位の貝殻刺突文を間隔をあけて施す。内面は摩耗・剥離が激しい。81は口縁部が外傾し、波状を呈する。口唇部は丸く尖る。口縁部外面はナデ調整をおこなった後、上部に0.5～1cmの小さな貝殻刺突文を口縁部の形状に合わせて6条施す。内面はヘラミガキ状に調整をおこなう。

82～88は、口縁部に横位の貝殻刺突文を施す。82は口唇部に狭い平坦面をもつ。外面は全体的に摩耗するが、口縁部上部に横位の貝殻刺突文を4～5条施す。内面調整はナデをおこなう。83は部分的に口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に2cm幅の間で横位の貝殻刺突文を6～7条施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。84は口唇

部に丸みをもつ。外面は全体的に摩耗するが、口縁部外面に3cm幅の間で横位の貝殻刺突文を9条施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。85は口縁部にかけてわずかに外反し、口唇部に平坦面をもつ。外面は全体的に剥離しているが、横位の貝殻刺突文がわずかに確認できる。内面調整は丁寧なナデをおこなう。86は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施すも、全体的に摩耗する。内面調整はナデをおこなう。87は口縁部がわずかに外反し、口唇部に丸みをもつ。口縁部上部に横位の貝殻刺突文を施し、一部短い縱位の貝殻条痕を施す。内面調整はナデをおこなう。88は口唇部に丸みをもち、口縁部外面に刺突文を3条施す。内面は摩耗する。

89～93は、口縁部外面に横位の貝殻刺突文を条線状に施す。89・90は口唇部に丸みをもち、口唇部外側に貝殻刺突を施す。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を数条施すも、摩耗が激しく詳細は不明である。内面調整は丁寧なナデをおこなう。91は口唇部端部に平坦面をもつ。内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなった後、口縁部外面の一部に、4cm幅の間で横位の貝殻刺突文を6条施す。92は口縁部に丸みをもつ。口縁部外面に3.5cm幅の間で横位の貝殻刺突文を4条施す。口唇部から約2cm下に補修孔がある。外面を大きく削りながら穿孔し、内面から孔の形を整えるように加工したと考えられる。胴部及び内面の調整はナデをおこなう。93は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に4cm幅の間で横位の貝殻刺突文を8条施す。内面調整はナデをおこない、口唇部内側に面をもつ。



第29図 IV-6類土器 (1)

94～96は胴部で、外面に横位及び縱位の貝殻刺突文を施す。94は外面上部に横位の貝殻刺突文を線状に3条施す。内外面ともにやや摩耗しており、調整の詳細は不明である。95は内外面ともに摩耗している。胴部外面に細かい横位の貝殻刺突文を施し、その直下に横位の貝殻刺突文を1条施す。96は胴部外面に細かい横位の貝殻刺突文を2cm幅で帯状に施した後、上から横位の貝殻刺突文を1条重ねて施す。内面調整はナデをおこなう。

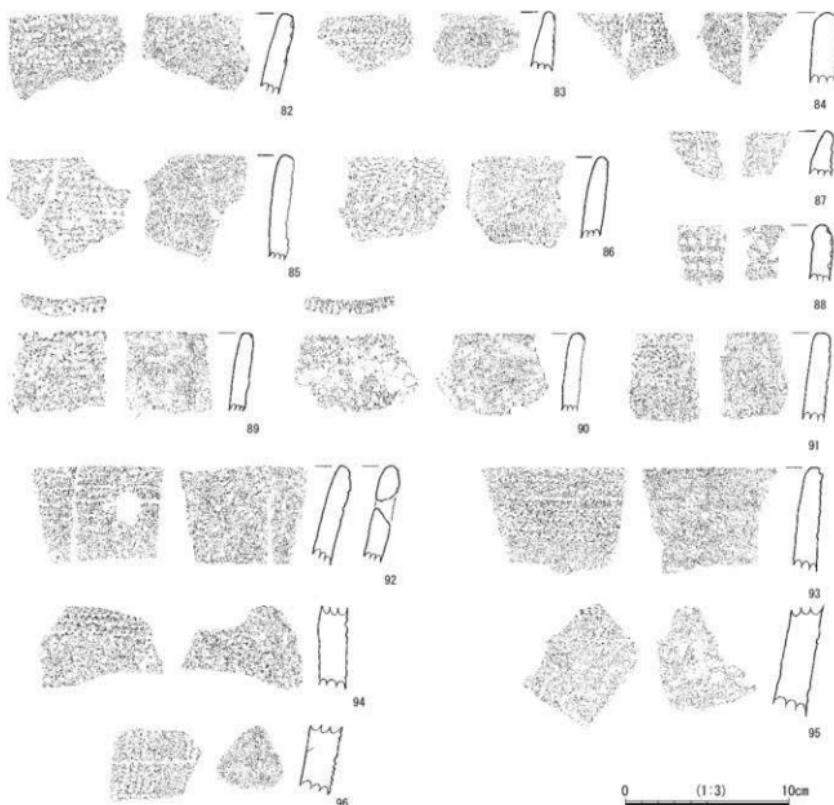
IV-7類 (第31図97～101)

97・98は口縁部で、口縁部外面に貝殻条痕を山形状や多線状に施す。97は口縁部がわずかに外反し、口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に山形状を呈する貝殻条痕を

密に施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。98は口縁部がわずかに内湾し、口唇部に平坦面をもつ。ナデ調整をおこなった後、口縁部外面に細かい貝殻押引文を施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。

99は胴部で、やや開き気味に立ち上がる器形となる。外面上部1cm幅の間に貝殻押引文を3条施し、その下位は貝殻を断続的に押す。内面調整はナデをおこなう。

100・101は、外面に縱位及び横位の貝殻条痕を施す。100は胴部外面に幅の広い横位の貝殻条痕を明瞭に施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。101は胴部外面に縱位の貝殻条痕を施した後、上部に横位の貝殻条痕を重ねて施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。



第30図 IV-6類土器 (2)

IV-8類 (第31図102~107)

102~107は口縁部である。102はやや外反気味に立ち上がり、平坦にした口唇部にキザミを施す。口縁部外面はナデ調整をおこなった後、ヘラ状工具による刺突を4段施す。胸部外面に直径1cm大の円形の粘土を貼り付けた痕跡が残る。内面調整は粗いケズリ状のナデをおこなう。103は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に0.4cm大の刺突を2条、その間に0.6cm大の刺突を1条施す。内面調整は粗いケズリ状のナデをおこなう。104は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に2.5cm幅の間で斜位の爪形刺突文を2段施す。内面調整はナデをおこなうが、一部剥離する。105は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に太く短い斜位の貝殻刺突文を3段施す。内面調整はナデをおこなう。106は口唇部に丸みをもつ。内外面ともにナデ調整をおこなった後、口縁部外面に2対1単位で貝殻刺突文を斜線状に施す。107は口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面は摩耗が激しいが、斜位の貝殻刺突文を施す。内面調整はナデをおこなう。

V類土器 (第32図108)

108は胸部である。内面の剥離が激しいため詳細は不明であるが、口縁部にかけて外傾するように内面がゆるやかに屈曲する。外面上部に縱位の貝殻刺突文を、その下位には横方向の鋸歯状の貝殻刺突文を施す。

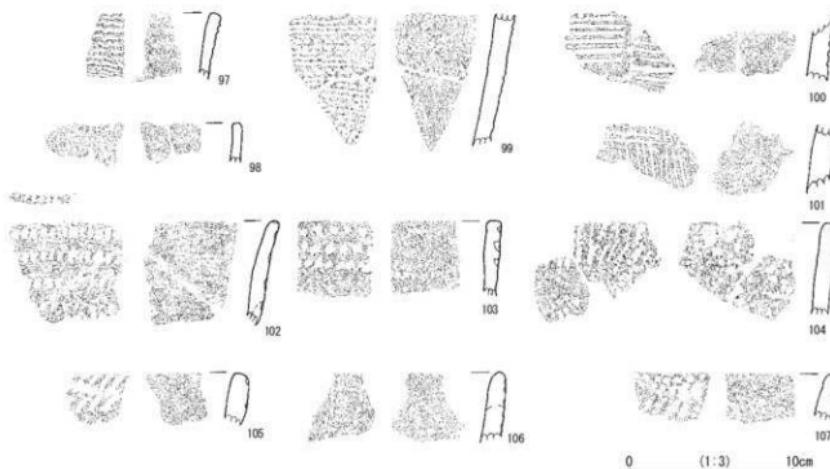
VI類土器 (第32図109~122)

109~114は口縁部である。109は口唇部に平坦面をも

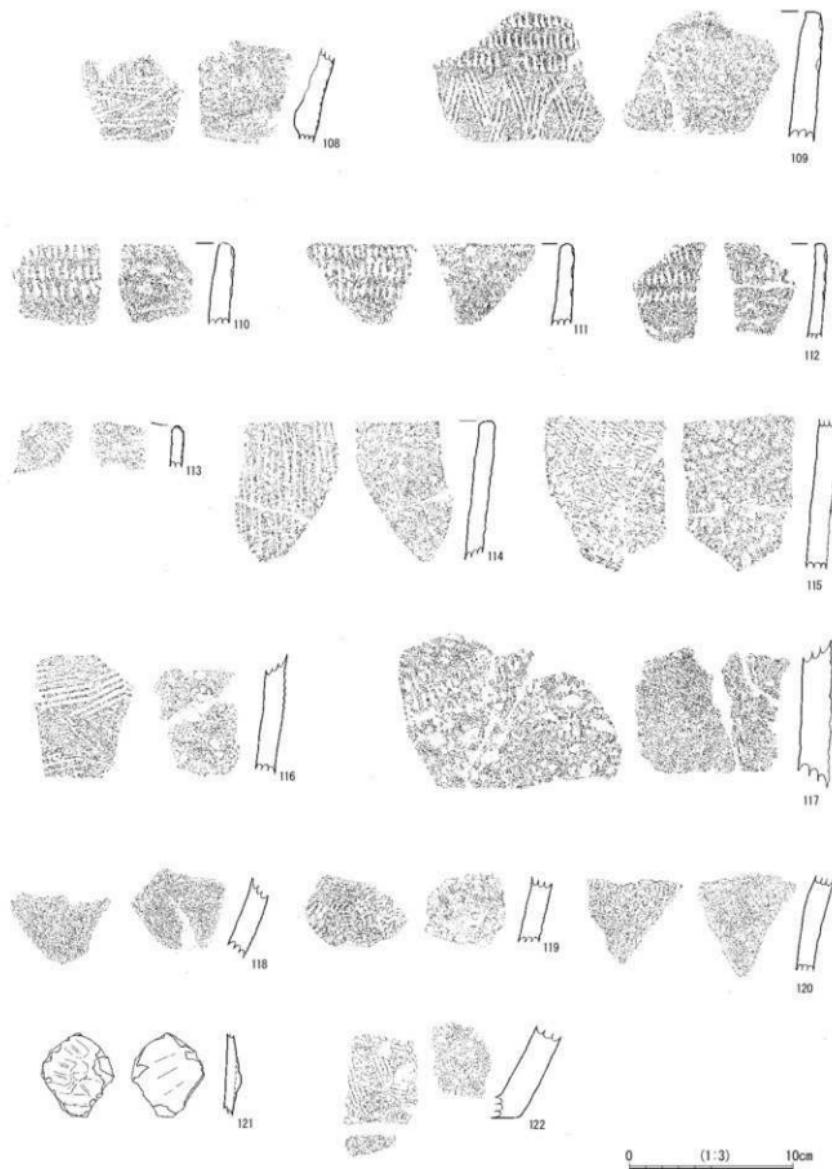
ち、内面の口唇部直下はわずかに段を有する。口縁部外面に3.5cm幅の間で工具による刺突文を3段施す。その下位に綾杉状の貝殻条痕を等間隔に施す。内面調整はナデをおこなう。110~112は口唇部になだらかな面をもつ。口縁部外面に3cm幅の間で短い爪形刺突文を3段施す。胸部及び内面調整はナデをおこなう。113は口縁部が波状を呈する。口唇部に浅い貝殻刺突を施すことで、口唇端部が尖った形状になる。内外面ともにナデ調整をおこなった後、外面に斜位の貝殻条痕を施す。114は口唇部に平坦面をもつ。外面は口縁部から胸部にかけて縱位の貝殻条痕を施し、内面調整は丁寧なナデをおこなう。

115~121は胸部である。115は内外面ともにやや剥離する。外面は斜位の貝殻条痕を短い単位で施す。116は内外面ともにナデ調整をおこなった後、外面に横位及び斜位の貝殻条痕を部分的に施す。117は全体的に摩耗・剥離しているが、内面は丁寧なナデ調整が残る。外面は縱位及び斜位の刺突を、2段1単位として帯状に施す。118は内外面ともにナデ調整をおこなった後、短い貝殻刺突文をまばらに施す。119は外面に丁寧なナデ調整をおこなった後、短い貝殻刺突文をまばらに施す。内面は摩耗しているが、ナデ調整が確認できる。120はやや外反する。外面はやや摩耗するが、浅い斜位の貝殻刺突文が残る。内面調整は丁寧なナデをおこなう。121は器壁が薄い。外面に粘土を貼り付け、なだらかな突起を形成する。内外面ともにナデ調整をおこなう。

122は底部で、開きながら立ち上がる。外面に斜位及び横位の貝殻条痕を施す。内面調整はナデをおこなう。



第31図 IV-7・8類土器



第32図 V・VI類土器

VII類土器（第33図123～125）

123は頭部で、口縁部に向かって外に開く。内外面ともにナデ調整をおこなった後、外面に横位の沈線を施す。124は外面に縱位の網目捺糸文を施す。内面調整はナデをおこなう。125は内外面ともに摩耗しているが、外面に3～4条1單位の斜位の沈線が確認できる。

VIII類土器（第33図126～第35図155）

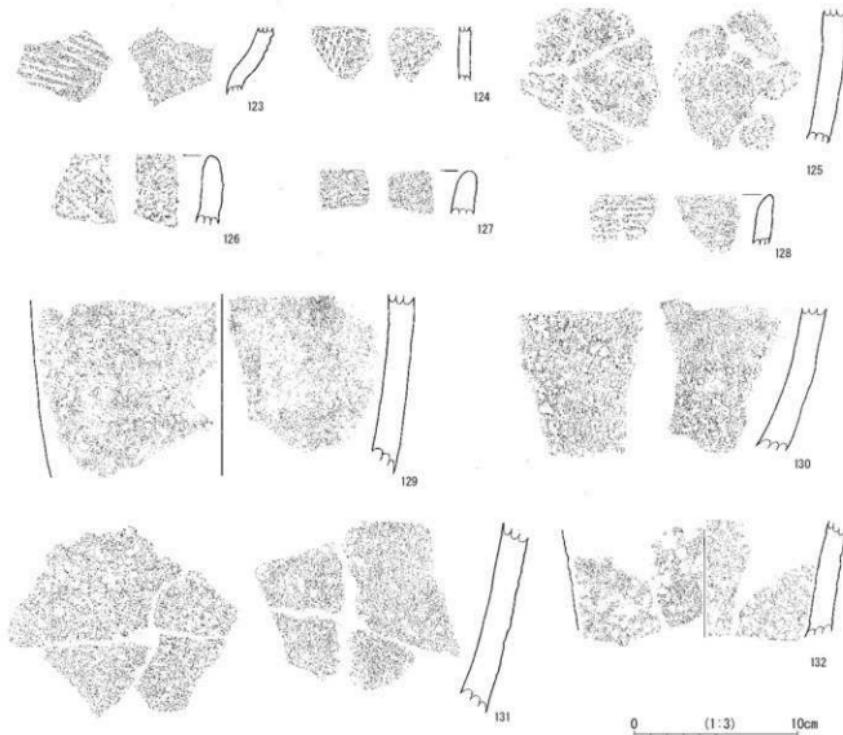
126～128は口縁部である。126は口唇部外側に丸みを帯びた平坦面をもつ。内外面ともに摩耗している。127は口唇部に丸みをもつ。口縁部外面に貝殻条痕を施した後、ナデ調整をおこなう。128は口縁部上部がやや外反する。口縁部外面に貝殻条痕を施した後、ナデ調整をおこなう。内面調整は丁寧なナデをおこなう。

129～139は胴部である。129は内外面ともにミガキ状の丁寧なナデ調整をおこなう。130・131は外面が摩耗し

ており詳細は不明だが、内面は丁寧なナデ調整が残る。132～136は内外面ともに摩耗・剥離するが、ナデ調整が確認できる。137は内外面ともにナデ調整をおこなった後、内面に縱位の太い沈線を1条と、「く」の字状の太い沈線を施す。138・139は底部に近い胴部である。138は器壁が2.2cmと厚手である。内外面ともに摩耗が激しいが、ナデ調整をおこなったと思われる。139は胴部が湾曲して底部にかけてすぼまる器形である。内外面ともに摩耗・剥離するが、ナデ調整が確認できる。

140・141は底部である。140は底部が円錐状に尖る。外面にミガキの痕跡が残り、内面調整はナデをおこなう。141は外面が大きく剥離しているが、内面の形状から丸底に近いと考えられる。内面調整はナデをおこなう。

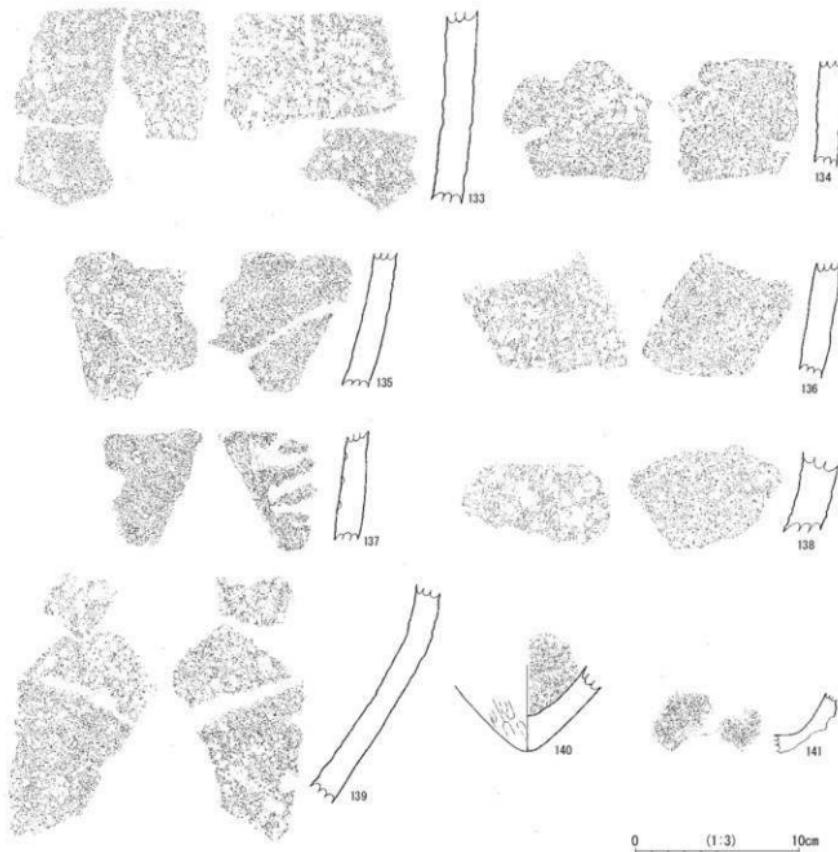
142～155は、胴部外面に貝殻条痕を施す。142・143は外面に浅い斜位の貝殻条痕を施す。内面は剥離するが、ナデ調整の痕跡が残る。144は胴部から底部にかけてす



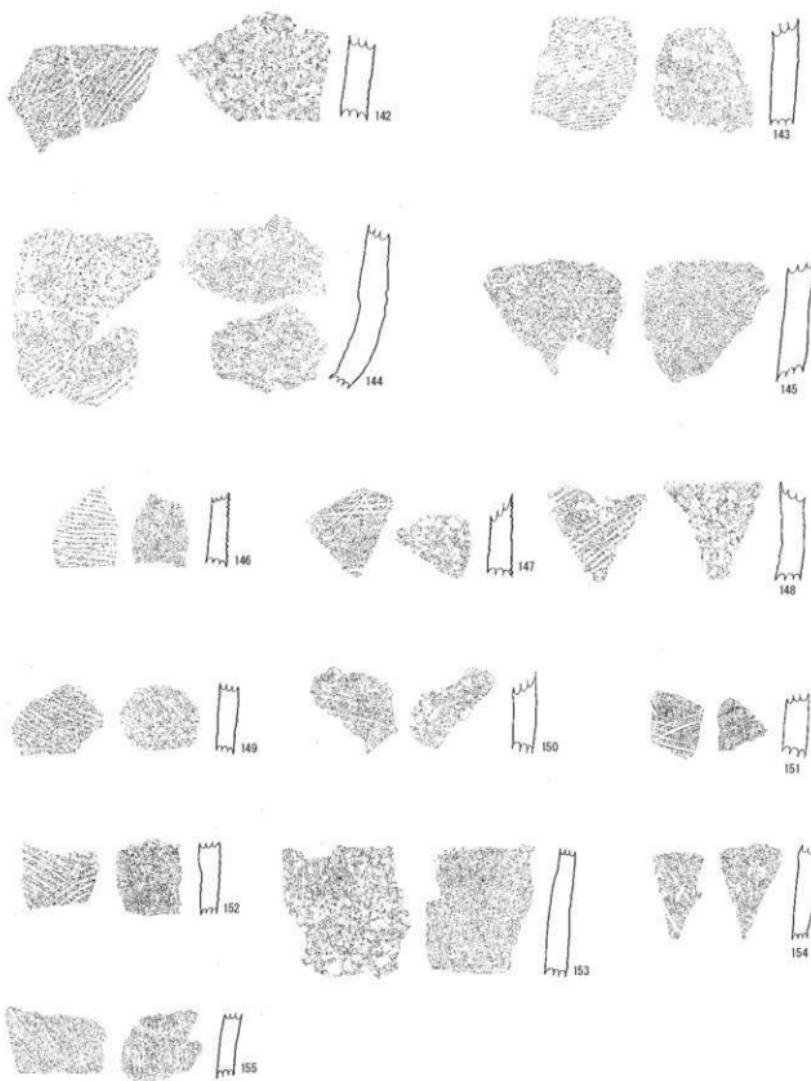
第33図 VII類土器、VIII類土器（1）

ぼまる。外面は摩耗が激しいが、一部斜位の貝殻条痕が確認できる。内面調整はヘラケズリ状のナデをおこなう。145は全体的に摩耗するが、外面に浅い横位の貝殻条痕を施す。内面調整はナデをおこなう。146は外面に横位の貝殻条痕を施す。内面調整は丁寧なナデをおこなう。147は外面に浅い横位の貝殻条痕を施した後、斜位の貝殻条痕を右方向、左方向の順に重ねる。内面は摩耗するが、ナデ調整が確認できる。148は外面に浅い斜位の貝殻条痕を施した後、逆方向の貝殻条痕を上から重ねる。内面は摩耗するが、ナデ調整が確認できる。149は外面に横位及び斜位の貝殻条痕を重ねて施す。内面調

整は粗いナデをおこなう。150は外面に浅い横位の貝殻条痕を施した後、一筋の縦位の条痕を重ねる。内外面ともに摩耗する。151は外面に丁寧なナデ調整をおこなった後、斜位及び縦位の明瞭な貝殻条痕を重ねる。内面はヘラナデ状に面を形成する。152は外面に左方向、右方向の順に斜位の貝殻条痕を重ねて施す。内面に指ナデの痕跡が残る。153は全体的に摩耗するが、外面に縦位の貝殻条痕が認められる。内面調整はナデをおこなう。154・155は外面に斜位の沈線を施す。内面調整はナデをおこなう。



第34図 VII類土器(2)



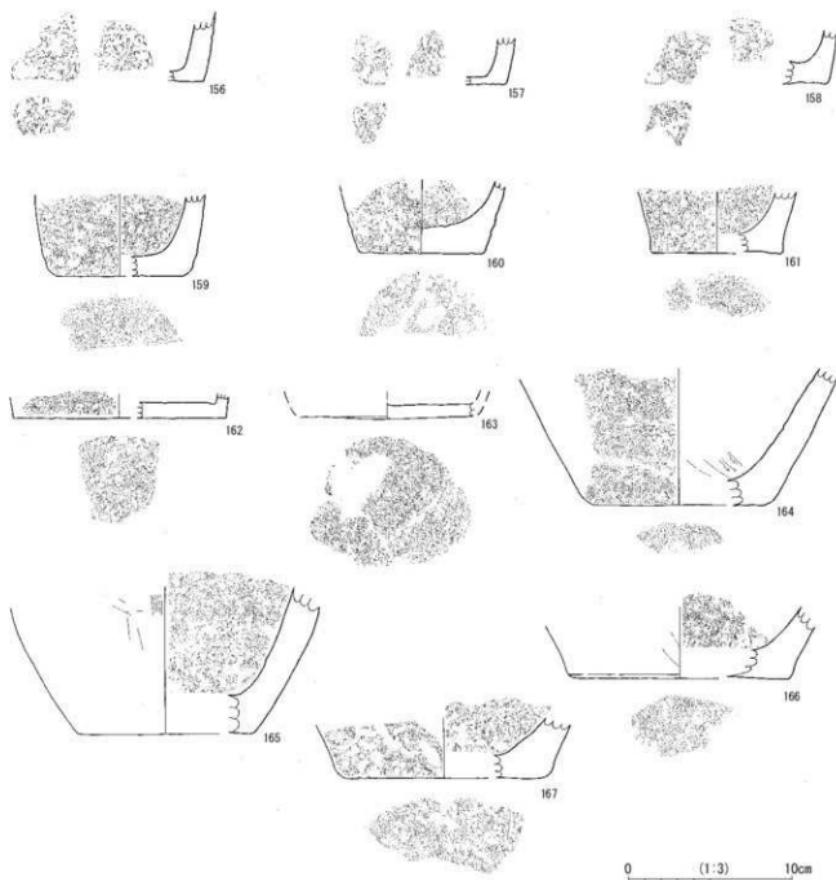
第35図 菩類土器(3)

IX類土器（第36図156～167）

156～163は直線的に立ち上がる器形で、底面は平坦もしくは中央がわずかに膨らむ。外面ともにナデ調整をおこなう。156・157は底端部に角をもつ。胴部の器壁の厚みと比較して、底部の器壁は約2分の1の薄さとなる。158～160は底端部に丸みをもち、内面も丸みをもちら立ち上がる。また158の底面には、線状の痕跡がわずかに残る。161は底端部が外側へ張り出し、内面は丸みをもって立ち上がる。底面はミガキ状に丁寧なナデ調整をおこなう。162は底端部と内面に角をもつ。163は底面

のみ残存する。中央部分がやや厚いため、底端部がわずかに浮く。内面に立ち上がりの一部が確認できる。

164～167は開きながら立ち上がる器形で、底面は平坦もしくはやや上げ底となる。164・165は底端部に丸みをもち、内面も丸みをもって立ち上がる。一部摩耗するが、外面ともに丁寧なナデ調整が認められる。また165の外面の一部では、縦位の貝殻条痕が確認できる。166・167は底端部に丸みをもち、わずかにくびれながら立ち上がる。内面も丸みをもつ。166の底面はやや上げ底となる。



第36図 IX類土器

X類土器 (第37図168~170)

168は口縁部で、口唇部付近でやや内湾し、胴部に向かってわずかに膨らむ。口唇部に平坦面をもち、口唇部外側から1cm間隔で隆起線文を施し、口唇部の隆起線文にはキザミを入れる。内面は粗い貝殻条痕を施す。

169・170は胴部で、外面に横位の沈線を施す。内面調整は169はナデを、170は丁寧なナデをおこなう。

XI類土器 (第37図171)

171は胴部で、外面に沈線文を横位、山形状、横位の順で施す。内面は粗い貝殻条痕を施す。

XII類土器 (第37図172~174)

172は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施す。内面は丁寧なナデ調整をおこなった後、長短の沈線を横位に施す。

173・174は胴部で、内外面とともに丁寧なナデ調整をおこなった後、外面に横位及び斜位の貝殻刺突文と押引文を施す。また174の外面下部には、粘土を帯状に貼り付けて形成した微隆帯がわずかに認められる。

XIII類土器 (第38図175)

175は口縁部で、口唇部が肥厚する。肥厚した口唇部にキザミ状の貝殻刺突文を密に施した後、棒状工具で縱位及び横位の深い沈線を施す。内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなう。

XIV類土器 (第38図176~178)

176~178は底部である。176・177は底面の繊物圧痕をナデ消しているが、一部もじり編みの底部分の圧痕が残る。底端部が外側へ強く張り出す器形で、外面は貝殻条痕を施した後、ナデ調整をおこなう。176は内面がすり鉢状にすぼまり、底面の器壁が胴部より薄くなる。内面は摩耗しており詳細は不明である。177は内面に貝殻条

痕が残る。178は底部が接着部分から剥離しているため詳細は不明だが、底端部に張り出しの一部が確認できる。外面はケズリ状のナデを、内面調整はナデをおこなう。

XV類土器 (第38図179~191)

XV-1類 (第38図179~186)

179~183は口縁部である。179は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部に平坦面をもつ。外面に横位の貝殻条痕を施し、内面調整は丁寧なナデをおこなう。180は口唇部を指でつまんで内側に丸み込み、平坦面を形成する。内外面ともに上部は丁寧なナデ調整をおこない、直下は粗い横位の貝殻条痕を施す。181・182は口縁部が直線的に立ち上がり、口唇部に丸みをもつ。181は外面に貝殻条痕を施した後、ナデ調整をおこなう。内面調整はナデをおこなう。182は口縁部内部の器壁がやや厚くなる。内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなう。183は口縁部が外傾し、胴部にむかって外側に屈曲する。口唇部に平坦面をもつ。内外面ともにナデ調整をおこなう。

184~186は胴部である。184は外面に細かな斜位の条痕を施し、内面調整はナデをおこなう。185は胴部に張り出しをもつ、口縁部に向かって外反気味に立ち上がる。張り出し部分の内面に段を有し、内外面ともにナデ調整をおこなう。186は開きながら立ち上がる。内外面ともに粗いナデ調整をおこなう。

XV-2類 (第38図187~191)

187は口縁部が強く屈曲し、屈曲部上位に沈線を1条施す。内外面ともにミガキをおこなうが、やや摩耗する。

188・189は胴部である。188は丸みをもつ肩部で、内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなう。189は肩部が強く屈曲する。外面はミガキが残り、内面は摩耗する。外面に二等辺三角形のような楔状の突起が貼り付けられる。

190・191は底部で、器形や胎土から同一個体と考えられる。底端部がやや外側に張り出し、胴部へ向かって開き気味に立ち上がる。底面はナデ調整をおこなう。

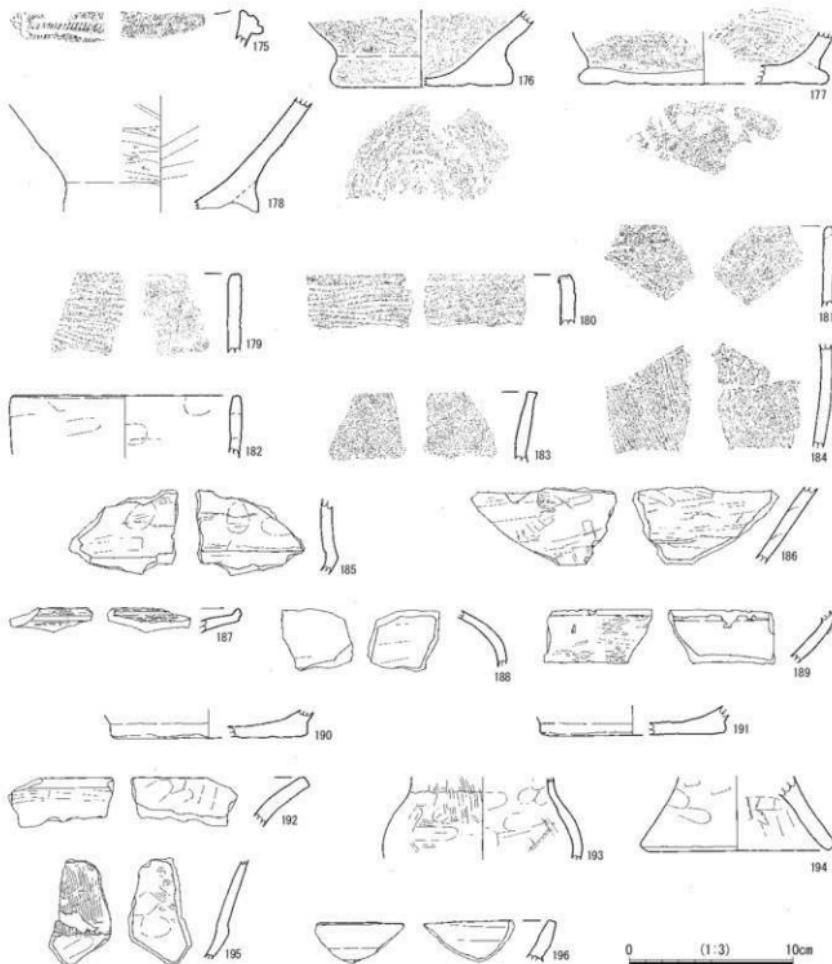


第37図 X~XII類土器

皿類土器（第38図192～196）

192は甕の口縁部である。口唇部が外反し、口唇部に平坦面をもつ。外面はハケ目、内面調整はナデをおこなう。193は小型甕の頸部から胴部である。内外面ともにハケ目、指ナデをおこなう。194は台付甕の脚部と思われる。内外面ともに指ナデ、工具ナデをおこなう。195

は壺の胸部である。わずかに張り出しをもち、開き気味に立ち上がる。内外面ともにハケ目、ナデ調整をおこなう。196は壺の口縁部で、口唇部に平坦面をもつ。わずかに頭部が残る。内外面ともに丁寧なナデ調整をおこなう。



第38図 XIII～XVI類土器

第4表 土器観察表（1）

探査番号	番号	出土区	層	断面	部位	主文跡-接縫		色調		法算(d)		出土		焼成	取上番号	備考			
						外面	内面	口縫	底縫	焼石	角向石	その他							
3	K-6-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	(22.0)	-	○	○	○	-	1007-1	-		
4	K-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/4	-	○	○	○	-	815	-		
5	K-14-I-13	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	粗いナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/4	-	○	○	○	-	908-1085	-		
6	K-14	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/5	-	○	○	○	-	919	-		
7	E-F-17	I-II	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	明黄赤	にぶい-暗赤	10YR7/6	-	○	○	○	-	良	一品		
8	J-14	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/4	-	○	○	○	-	1115	-		
22	9	K-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	根	根	7.5YR7/6	-	○	○	○	-	1316	-	
	10	K-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文-楕円条痕	粗いナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR6/4	-	○	○	○	-	50	-	
	11	K-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR6/4	-	○	○	○	-	1518	-	
	12	F-17	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/3	-	○	○	○	-	836	-	
	13	J-16	Eb	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	浅黄赤	眞黄赤	10YR8/4	-	○	○	+	-	462	-	
	14	J-6-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	根	根	10YR8/4	-	○	○	○	-	1317-1	-	
	15	K-16	Ea	I-1	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/3	-	○	○	○	-	良好	-	
	16	K-16	Ea	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR7/4	-	○	○	○	-	1320	-	
	17	J-16	V-2	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR7/4	-	○	○	○	-	1548	-	
	18	E-17	Ea	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文	粗いナデ	浅黄赤	にぶい-暗赤	10YR8/4	-	○	○	○	-	573	-	
	19	K-16	Ea	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	粗いナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR7/5	-	○	○	○	-	赤色和	不良	
	20	J-15	Ea	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	粗いナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR8/4	-	○	○	○	-	1593	-	
	21	K-14	Ea	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR7/4	-	○	○	○	-	678	-	
	22	F-16	I-1	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	粗いナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR6/6	-	○	○	○	-	良好	-	
	23	H-16-17	I-IIa	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	7.5YR7/4	10YR5/4	-	○	○	○	安山Ⅱ	良好	-
	24	K-16	Ea	I-2	角舟	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	10YR7/4	10YR6/3	-	○	○	○	-	1764	-
	25	F-17	Ea	I-	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文-楕円条痕	ヘラケズリ状ナデ	ナデ	根	明黄赤	7.5YR6/4	(23.8)	○	○	○	火山ガラス	841-848	-
	26	K-16	Ea	I-	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	10YR7/4	10YR6/4	(20.0)	○	○	○	-	1023	-
	27	K-16	Ea	I-	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	10YR7/6	(22.0)	○	○	○	圓	962	-	
	28	J-16	Eb	I-	円筒	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	丁寧なナデ	7.5YR6/6	7.5YR6/5	-	○	○	○	-	西田和也	-		
	29	G-20	Ea	I-	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	根	7.5YR6/4	7.5YR6/5	-	○	○	○	-	582	-
	30	G-20	Ea	I-	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円形付文-楕円条痕	ケブリ状ナデ	根	根	7.5YR6/5	7.5YR6/4	-	○	○	○	火山ガラス	737	-
	31	K-14	Ea	I-	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	7.5YR6/4	7.5YR6/4	-	○	○	○	-	689	-
	32	H-16	Ea	I-	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	10YR7/6	10YR7/6	(22.0)	○	○	○	-	1511-1773	-
	33	J-14	Ea	I-	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	7.5YR6/4	7.5YR6/5	-	○	○	○	-	1219	-
	34	K-14	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR6/4	7.5YR6/5	-	○	○	○	-	285	-
	35	F-17	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	7.5YR6/4	7.5YR6/5	-	○	○	○	-	やわら	1245-1260
	36	J-16	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	7.5YR6/4	7.5YR6/5	-	○	○	○	-	1171	-
	37	I-16	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	10YR7/4	10YR7/5	-	○	○	○	-	やわら	404
	38	K-16	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	反黒	眞黄赤	10YR8/4	10YR8/5	(16.0)	○	○	○	安山Ⅱ	良好	-
	39	K-13	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	反黒	眞黄赤	10YR8/2	10YR8/3	-	○	○	○	-	1100	-
	40	F-17	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	反黒	眞黄赤	10YR8/2	10YR8/3	-	○	○	○	-	846	-
	41	J-16	Ea	N-1	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-楕円条痕	ナデ	反黒	眞黄赤	10YR8/2	10YR8/2	-	○	○	○	-	赤色和	-
	42	I-15	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	7.5YR3/1	7.5YR3/2	7.5YR3/1	7.5YR3/2	-	○	○	○	-	やわら	1787
	43	I-14	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/3	10YR6/3	-	○	○	+	-	1870	-
	44	K-13	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	根	眞黄赤	10YR7/2	10YR6/4	-	○	○	○	-	黒色和	925
	45	J-16	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-ナデ	丁寧なナデ	にぶい-暗赤	眞黄赤	10YR7/4	10YR7/4	-	○	○	○	-	52	-
	46	H-17	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ナデ	根	眞黄赤	10YR7/4	10YR7/4	-	○	○	○	-	1454	-
	47	J-16	Ea	N-2	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-ナデ	ナデ	根	眞黄赤	10YR7/4	10YR7/4	-	○	○	○	-	432	-
	48	I-16	Ea	N-3	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	ヘラナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR7/3	10YR6/4	-	○	○	○	-	火山ガラス	1774
	49	J-15	Ea	N-3	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-ナデ	ナデ	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	10YR6/3	10YR6/4	-	○	○	○	-	穿孔アリ	-
	50	F-H-20-21 蒙古レンジ	I-II	N-3	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文-ナデ	ナデ	根	眞黄赤	7.5YR6/6	-	○	○	+	-	148	-	
	51	K-17	Ea	N-3	深鉢	口縫部	ヰサニ-呪符印文	不明	にぶい-暗赤	にぶい-暗赤	2.5YR7/3	2.5YR7/3	-	○	○	+	-	723	-

第5表 土器観察表(2)

調査番号	出土地区	種類	器形	部位	主文移・副詞		色調		法縫(x)		胎土		焼成	取上番号	備考					
					外側	内面	外側	内面	口縫	底縫	底石	右肩	左肩	右脚	左脚	その他				
52	J-15	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	に黒(薄黒)	-	-	○	○	○	○	○	良	1725	-	
53	K-14	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	7.5W7/6	10W7/3	-	-	○	○	○	○	○	良	1420-	早丸あり
54	K-16	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/6	(27.0)	-	○	○	○	-	謙	1597-	-	
55	K-16	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文	平縫	黒褐	10W3/1	10W6/4	-	-	○	○	○	-	黑色粒	960	-	
56	I-15	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	10W7/6	10W7/4	-	-	○	○	○	-	謙(白)吉	1853	-	
27	57	F-17	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	明褐色	10W2/6	-	-	○	○	-	謙(白)吉	839	-	
58	J-16	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/7	-	-	○	○	○	-	良	1346	-	
59	J-K-14-15	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	10W3/1	10W3/1	-	-	○	○	○	-	黑色粒	やや不均	-	
60	G-17	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/6	-	-	○	○	○	-	良	1484	-	
61	E-17	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W7/2	-	-	○	○	○	-	黑色粒	やや不均	864	
62	L-13	Ia	N-3	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	タリニア	10W7/4	-	-	○	○	○	-	謙	1143	-	
63	J-T-16-27ランダ	Ia	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒	7.5W7/6	10W7/4	(18.6)	-	○	○	○	-	黑色粒	1310-	1287-	
64	24ランダ	I	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	10W6/4	10W6/3	-	-	○	○	○	-	灰色粒	155-	-	
65	J-15	Ia	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/4	-	-	○	○	○	-	赤色粒	物823	-	
66	K-14	Ia	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W7/2	-	-	○	○	○	-	良	1485	-	
67	I-14	Ia	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文	ハケ目状ナデ	黒	10W8/2	10W8/1	-	-	○	○	○	-	灰色粒	物824	-	
28	68	北朝-レシナ	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/4	2.5W7/3	-	-	○	○	-	-	一品	-	
69	K-16	Ia	N-4	深鉢	口縫部	貝唇例文・丁寧なナデ	不規	黒褐	10W7/4	7.5W5/6	-	-	○	○	○	-	灰色粒	804	-	
70	J-14	Ia	N-5	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	10W6/3	10W8/4	-	-	○	○	○	-	良	281-284	-	
71	J-15	Ia	N-5	深鉢	口縫部	貝唇例文・次第	丁寧なナデ	黒褐	2.5W7/4	-	-	○	○	○	-	謙	187	-		
72	J-14	Ia	N-5	深鉢	口縫部	貝唇例文・次第	丁寧なナデ	黒褐	10W7/4	10W7/3	-	-	○	○	○	-	灰色粒	299-318	-	
73	J-16	Ia	N-5	深鉢	口縫部	貝唇例文・丁寧なナデ	丁寧なナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W7/2	10W6/3	-	-	○	○	○	-	赤色粒	440-447-	449
74	H-16	Ia	N-5	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W7/4	10W6/4	-	-	○	○	○	-	良	-	
75	K-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	ギザ・貝唇例文	ナデ	黒褐	10W6/2	7.5W6/4	-	-	○	○	○	-	謙(白)吉	1077	-	
76	I-17	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	10W6/2	10W5/2	-	-	○	○	○	-	赤色粒	1663	御付蓋	
77	J-I-14-15	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	10W6/1	10W5/2	-	-	○	○	○	-	灰色粒	1112-	1574-	
78	J-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	ナデ	黒褐	10W6/4	10W6/4	-	-	○	○	○	-	良	380-389	御付	
79	J-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	10W6/2	10W5/1	-	-	○	○	○	-	灰色粒	やや不均	22	
80	J-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	不規	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/2	10W7/6	-	-	○	○	○	-	不規	431	-
81	J-15	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	ヘラ三段状	黒褐	10W7/6	10W6/4	-	-	○	○	○	-	尖山ガラス	1290	-	
82	L-13	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	10W6/2	10W7/6	-	-	○	○	○	-	謙(白)吉	1142	-	
83	L-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・ナデ	丁寧なナデ	黒褐	10W6/4	10W7/4	-	-	○	○	○	-	良	637	-	
84	L-13-4-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/3	10W6/3	-	-	○	○	○	-	灰色粒	1251-	1269-
85	H-18-19	I-6	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	C.0L1.黒褐	10W6/4	10W6/6	-	-	○	○	○	-	良	-	
86	L-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	2.5W7/4	10W7/4	-	-	○	○	○	-	謙	636	-	
87	I-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・底堅柔軟	ナデ	黒褐	2.5W6/4	2.5W6/4	-	-	○	○	○	-	良	-		
88	K-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	10W6/4	10W7/4	-	-	○	○	○	-	良	1360	早丸あり	
30	89	I-14	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	10W7/4	10W7/4	-	-	○	○	○	-	謙(白)吉	359	-
90	K-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	10W6/3	10W6/3	-	-	○	○	○	-	良	1002	-	
91	G-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・次第	丁寧なナデ	黒褐	10W5/2	7.5W7/6	-	-	○	○	○	-	赤色粒	1483	-	
92	J-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文・底堅柔軟	ナデ	黒褐	10W6/4	10W7/2	-	-	○	○	○	-	良	-		
93	F-17	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	10W6/4	10W6/4	-	-	○	○	○	-	良	839	-	
94	G-17	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	不規	黒褐	10W3/1	10W6/5	-	-	○	○	○	-	赤色粒	1438	-	
95	K-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	不規	黒褐	2.5W7/4	10W6/4	-	-	○	○	○	-	不規	1325	-	
96	J-16	Ia	N-6	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	2.5W7/3	10W7/4	-	-	○	○	○	-	良	1352	-	
31	97	F-121-24	I-6	N-7	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	10W4/2	10W7/6	-	-	○	○	○	-	良	-	
98	K-14	Ia	N-7	深鉢	口縫部	貝唇例文	丁寧なナデ	黒褐	10W7/3	10W6/3	-	-	○	○	○	-	赤色粒	良	-	
99	K-14-9-15	Ia	N-7	深鉢	口縫部	貝唇例文	ナデ	黒褐	10W7/6	10W6/6	-	-	○	○	○	-	金雲母	1056-	1566	

第6表 土器観察表（3）

番号	出土地	層	断面	器種	部位	主文移・調査		色調		法量(cm)		施土		焼成		取上番号	備考		
						外側	内面	外側	内面	口径	底径	高さ	石英	角閃石	その他				
31	100	I-14	Ea	N-7	深鉢	調査	貝殻多層	丁寧なナデ	にじる黒	にじる黒	-	-	○	○	○	露母	良好	1866 -	
	101	I-16	Ea	N-7	深鉢	調査	貝殻多層	丁寧なナデ	にじる黒	にじる黒	-	-	○	○	○	露母	適切	1831 -	
	102	J-16	Ea	N-8	深鉢	口縁部	ヰサニ・工芸刺繡	ケズリ状ナデ	黒	黒	-	-	○	○	○	露母	-	1350 -	
	103	E-19	Ea	N-8	深鉢	口縁部	刺繡	ケズリ状ナデ	にじる黒	にじる黒	-	-	○	○	○	織	-	561 -	
	104	I-16	Ea	N-8	深鉢	口縁部	刺繡文	ナデ	黒	黒	-	-	○	○	○	露母	やや不良	1712-1番 -	
	105	カグラン	-	N-8	深鉢	口縁部	貝殻多層	ナデ	黒	黒	-	-	○	○	○	赤色和	良	一族 -	
	106	K-14	Ea	N-8	深鉢	口縁部	貝殻多層	ナデ	黒	黒	-	-	○	○	○	織	-	1601 -	
	107	J-16	Ea	N-8	深鉢	口縁部	貝殻多層	ナデ	黒	黒	-	-	○	○	○	露母	-	120 -	
	108	H-14	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	不明	にじる黒	にじる黒	-	-	○	○	○	金露母	-	1872 -	
	109	J-15	Eb	V	深鉢	口縁部	刺繡文・貝殻多層	ナデ	黒	黒	10986-1	-	○	○	○	赤色和	良	1567-1568 -	
32	110	L-13	Ea	V	深鉢	口縁部	刺繡文・ナデ	ナデ	黒	黒	-	-	○	○	○	やや不良	875 -		
	111	J-16	Ea	V	深鉢	口縁部	刺繡文・ナデ	ナデ	黒	黒	10985-1	-	○	○	○	世	56 -		
	112	K-17	Ea	V	深鉢	口縁部	刺繡文・ナデ	ナデ	黒	黒	10986-2	-	○	○	○	やや不良	732 -		
	113	F-16	Ea	V	深鉢	口縁部	貝殻多層・貝殻多層	ナデ	黒	黒	25797-4	-	○	○	○	綿好	1837 -		
	114	J-16	Ea	V	深鉢	口縁部	貝殻多層	丁寧なナデ	黒	黒	10986-3	-	○	○	○	良	1661 -		
	115	I-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	不明	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	良	1760 -		
	116	F-17	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	赤色和	良	579 -	
	117	J-16	Ea	V	深鉢	調査	刺繡文	丁寧なナデ	黒	黒	25798-4	-	○	○	○	良	57-104 -		
	118	F-17	Ea	V	深鉢	調査	刺繡文	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	-	1166 -		
	119	I-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層・丁寧なナデ	ナデ	黒	黒	75795-6	-	○	○	○	-	一族 -		
33	120	F-G-16-17	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	丁寧なナデ	黒	黒	75796-6	-	○	○	○	-	一族 -		
	121	Z7レンシ	Ea	V	深鉢	調査	粘土胎・糸付ナデ	ナデ	黒	黒	75798-4	-	○	○	○	火山ガラス	-	-	
	122	H-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	10987-3	-	○	○	○	良好	1772 -		
	123	J-14	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	赤色和	やや不良	346 -	
	124	K-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	10987-3	-	○	○	○	陶器粒子	良	1340 -	
	125	J-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	不明	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	やや不良	52 -		
	126	J-15	Ea	V	深鉢	口縁部	不明	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	-	1562 -		
	127	G-H-17	Ea	V	深鉢	口縁部	貝殻多層・ナデ	ナデ	黒	黒	25796-4	-	○	○	○	-	一族 -		
	128	J-16	Ea	V	深鉢	口縁部	貝殻多層・ナデ	丁寧なナデ	黒	黒	25797-4	-	○	○	○	-	1547 -		
	129	K-16	Ea	V	深鉢	調査	丁寧なナデ	丁寧なナデ	黒	黒	75797-6	-	○	○	○	赤色和	良好	970 -	
34	130	J-16	Ea	V	深鉢	調査	不明	丁寧なナデ	黒	黒	10987-6	2.5Y7/4	-	-	○	綿	-	444 -	
	131	L-14	Ea	V	深鉢	調査	不明	丁寧なナデ	にじる黒	にじる黒	10987-4	-	○	○	○	火山ガラス	1666-1667-1668-1669-1670-1671-1672-1673-1674-1675-1676-1677-1678-1679-1680-1681 -		
	132	K-16	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	10987-6	-	○	○	○	-	1335 -		
	133	K-H-15	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	にじる黒	にじる黒	75798-5	-	○	○	○	-	1033-1034-1224-1225-1226-1227-1228-1229-1230 -		
	134	J-15	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	25797-4	-	○	○	○	綿	-	1690 -	
	135	J-16	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	-	1410 -		
	136	J-16	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	25797-4	-	○	○	○	-	1308 -		
	137	K-16	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	やや不良	1281 -		
	138	K-14	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	10987-4	-	○	○	○	綿	-	1667 -	
	139	I-16	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	10987-6	2.5Y7/2	-	-	○	-	-	1717 -	
35	140	L-13	Ea	V	深鉢	調査	江戸手	ナデ	黒	黒	7.5Y7/6	-	○	○	○	-	良好	138 実測	
	141	K-14	Ea	V	深鉢	調査	ナデ	ナデ	黒	黒	2.5Y7/3	-	○	○	○	-	691-1062 -		
	142	J-14	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	10988-3	10987-3	-	-	○	○	良	1854 -	
	143	K-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	10987-4	10986-4	-	-	○	綿	-	6802 -	
	144	I-16	Ea	V	深鉢	調査	ヘラクレス状ナデ	ナデ	黒	黒	10985-6	10985-5	-	-	○	○	火山ガラス	-	1761 -
	145	J-16	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	2.5Y7/3	2.5Y7/4	-	-	○	-	-	1309 -	
	146	F-17	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	丁寧なナデ	黒	黒	10985-6	10985-5	-	-	○	○	綿	-	837 -
	147	K-17	Ea	V	深鉢	調査	貝殻多層	ナデ	黒	黒	2.5Y7/2	2.5Y7/4	-	-	○	○	-	730 -	

第7表 土器観察表(4)

測定番号	測定番号	出土区	種	縁形	縁幅	部位	主文移・副詞		色調		法線(x)		地土		焼成	取上番号	備考	
							外面	内面	外面	内面	口縁	底面	石質	石質	表面	肉質		
35	148	I-14	Ea	直	深縁	底部	貝殻多枚	ナデ	CJL19 2.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	-	-	-	-
	149	J-16	Ea	直	深縁	底部	貝殻多枚	粗いナデ	CJL19 10%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	-	○	焼	-
	150	J-14 東西レーン	Ea	直	深縁	底部	貝殻多枚	平滑	底面 2.5%7/2	底面 2.5%7/3	-	-	○	○	-	+	焼	-
	151	G-17-18	カツラ	直	深縁	底部	貝殻多枚-丁寧なナデ	ナデ	CJL19 10%6/4	CJL19 10%6/5	-	-	○	○	○	○	やや 不均	-
	152	K-15	I-V 二	直	深縁	底部	貝殻多枚	高ナデ	CJL19 2.5%6/3	CJL19 2.5%6/4	-	-	○	○	○	○	やや 不均	-
	153	K-16	Ea	直	深縁	底部	貝殻多枚	ナデ	CJL19 7.5%6/6	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	良	1012
	154	F-17	Ea	直	深縁	底部	貝殻多枚	ナデ	CJL19 7.5%6/6	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	一筋	-
	155	F-17	Ea	直	深縁	底部	貝殻多枚	ナデ	CJL19 7.5%6/6	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	一筋	-
	156	J-16	Ea	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 7.5%6/4	-	-	○	○	○	○	倒	1387
	157	J-16	Ea	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 7.5%6/4	-	-	○	○	○	○	赤色和 灰色和	1402
36	158	G-16	Eb	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	焼	1481
	159	F-17	Ea	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	斜	856
	160	J-15-K-15	Ea	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 10%6/2	CJL19 10%6/2	-	-	田	田	○	-	安山那	172-15
	161	K-15	Ea	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	田	田	○	○	良	980
	162	J-16	Eb	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 7.5%6/4	-	-	田	田	○	-	青母	1222
	163	K-16-L-13	Ea	X	円周	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 7.5%6/4	-	-	田	田	○	-	青母	1249
	164	F-17	Ea	X	深縁	底部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	田	田	○	-	一筋	1249
	165	K-L-13-14	E-Ba	直	深縁	底部	貝殻多枚-丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	田	田	○	○	良	1166
	166	F-17	Ea	X	深縁	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/1	-	-	田	田	○	○	斜	843
	167	G-17	Ea	X	深縁	底部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/1	-	-	田	田	○	○	斜	1442
37	168	I-17	Ea	X	-	口縁部	貝殻多枚、ギザ三	貝殻多枚	CJL19 7.5%6/5	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	一筋	-
	169	J-16	Ea	X	-	口縁部	貝殻多枚	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	不均	386
	170	G-15	Ea	X	神	口縁部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	青母	1874
	171	F-17	Ea	XI	-	口縁部	貝殻多枚	貝殻多枚	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	一筋	578
	172	G-H-16	Ea	XII	深縁	口縁部	貝殻多枚-突起実文	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	やや 不均	-
	173	H-16	Ea	XII	深縁	口縁部	貝殻多枚突起実文-引け印	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/5	-	-	○	○	○	○	良	1800
	174	G-H-15	E-Ba	XII	深縁	口縁部	貝殻多枚突起実文-引け印南	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	青母	125
	175	F-16	I	XIII	深縁	口縁部	貝殻多枚突起実文-引け印	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	青母	125
	176	J-16	Ea	XIV	深縁	口縁部	貝殻多枚-備物E-後	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	青母	1874
	177	L-13	Ea	XV	深縁	口縁部	貝殻多枚-備物E-後	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	良	874
38	178	J-15	Ea	XV	深縁	口縁部	ケズ吹きナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	良	190
	179	G-22	カツラ	XV-1	深縁	口縁部	貝殻多枚	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	青母	-
	180	北側レーンシ	-	XV-1	深縁	口縁部	貝殻多枚-丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	赤色和	-
	181	H-16	Ea	XV-1	深縁	口縁部	貝殻多枚-ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	やや 不均	1797
	182	K-16	Ea	XV-1	深縁	口縁部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	(14.0)	-	○	○	○	○	良	1181-15
	183	J-16	Ea	XV-1	深縁	口縁部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	金青母	一筋
	184	K-16	Ea	XV-1	深縁	口縁部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	斜	955-1005
	185	J-16	Ea	XV-1	深縁	口縁部	ナデ	ナデ	CJL19 7.5%6/4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	金青母	1506
	186	I-17	Ea	XV-1	深縁	口縁部	粗いナデ	粗いナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 5.5%4	-	-	○	○	○	○	金青母	1777
	187	J-14	Ea	XV-2	浅縁	口縁部	三ガホ-ナデ	三ガホ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	斜	326
39	188	I-16	Ea	XV-2	浅縁	口縁部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	良	1502
	189	K-13-14	Ea	XV-2	浅縁	口縁部	三ガホ	平滑	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	良	669-15
	190	I-16	Ea	XV-2	浅縁	口縁部	ナデ	ナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/4	-	(12.0)	○	○	○	○	金青母	1534
	191	I-16	Ea	XV-2	浅縁	口縁部	ナデ	ナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/3	-	(1.4)	○	○	○	○	金青母 横(1.4)	1534
	192	J-15	Ea	XVI	直	口縁部	ハケ目	ナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/3	-	-	○	○	○	○	赤色和	良
	193	K-16	Ea	XVI	小型 直	口縁部	ハケ目-ナデ	ハケ目-ナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	青母	956
	194	K-16	Ea	XVI	台付	口縁部	工具ナデ-ナデ	工具ナデ-ナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/2	-	(12.0)	○	○	○	○	青母	800
	195	K-16	Ea	XVI	直	口縁部	ハケ目-ナデ	ハケ目-ナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/2	-	-	○	○	○	○	斜	956-15
	196	J-16	Ea	XVI	直	口縁部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	CJL19 5.5%4	CJL19 10%6/4	-	-	○	○	○	○	青母	1763

第4節 石器（第39図～第49図）

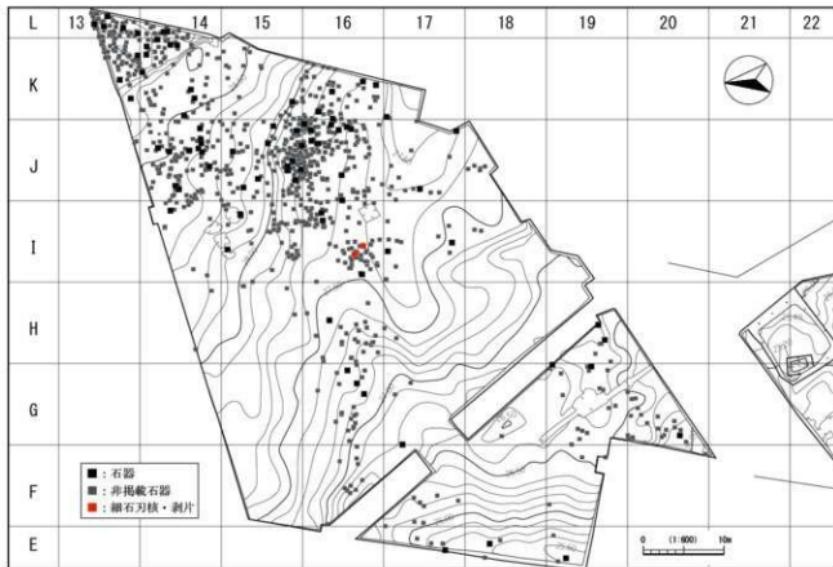
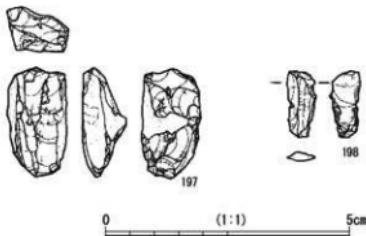
石器は、Ⅲa層を中心に細石刃核・剥片・打製石鐵・磨製石鐵・石錐・削器・楔形石器・尖頭器・打製石斧・磨製石斧・錐状石器・磨石・敲石・砥石・石皿等が出土した。ただし、扇状地の末端に所在する本遺跡は、後世の小規模な土石流等の影響により堆積状況は良好ではなく、場所によっては不安定な堆積状況となる。また、縄文時代早期土器から近世の陶磁器まで同層から出土することから、どの時期に該当するかは不明な遺物もあるが、器種ごとに記述する。

細石刃核・剥片（第39図197・198）

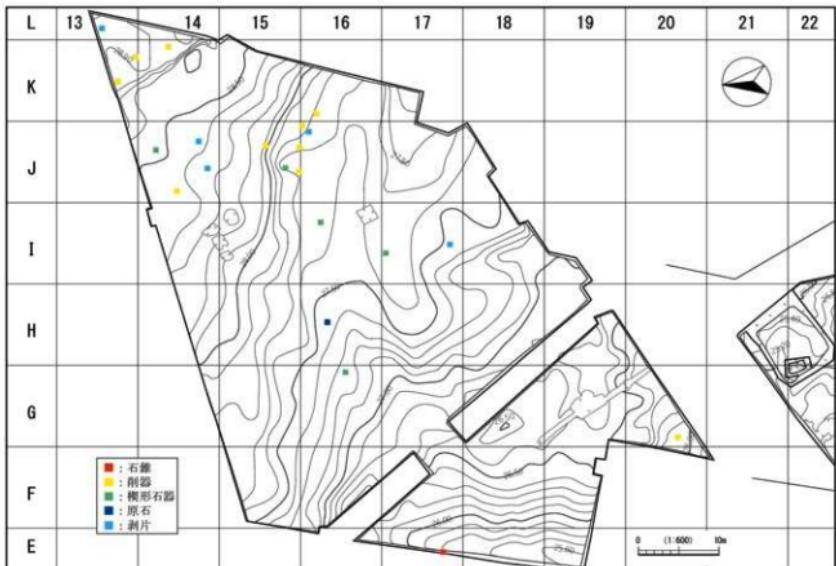
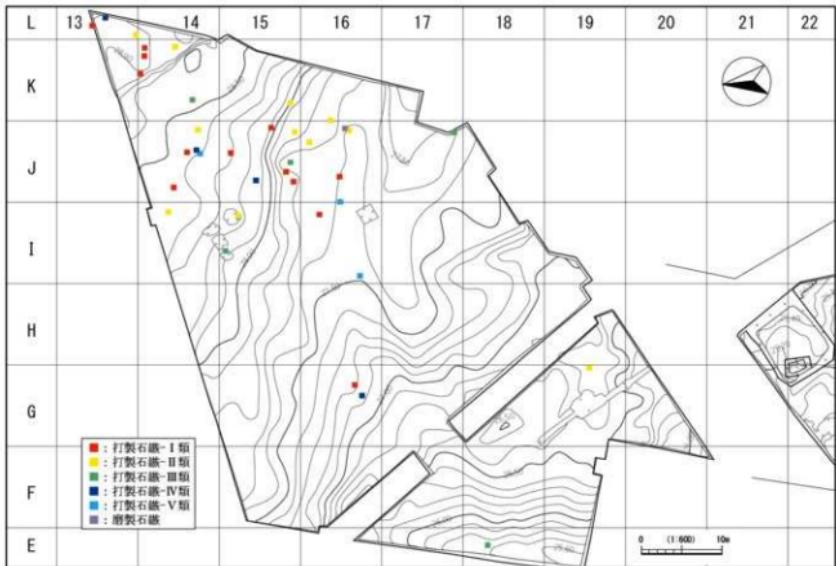
旧石器時代の該当層は見られず、遺構は検出されなかつた。795個あまりの黒曜石やチャートを素材とする剥片やチップなどが出土したが、層位や形状などから旧石器時代の遺物と断定できなかつた。そのため、形態が明瞭である197と198を、旧石器時代の遺物として図示した。

197の石材はOB4B類であり、自然面を有する。角礫を素材とし、打面は背面方向に急角度で傾斜している。

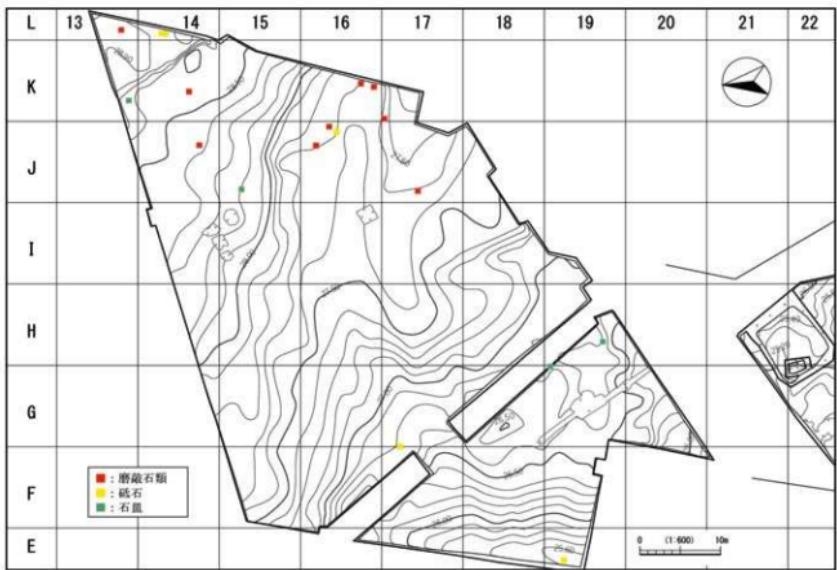
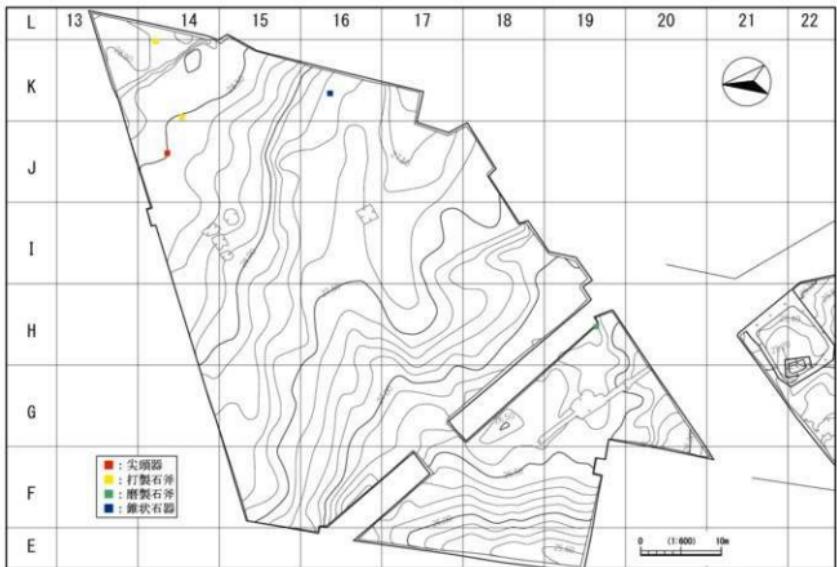
形状は角錐状を呈する。打面は作業面から形成され、作業面から背面にかけて上段と側面から調整を行い、細石刃を剥出している。左側面に古い調整が見られ、背面に下線調整が施されている。角錐状を呈し、石核調整がほとんど施されない。198の石材はOB1A類であり、頭部に調整が見られず、右側面に細かな調整が見られる。背面と主要剥離面の剥離方向が違うことから、細石刃製作時の剥片と思われる。



第39図 細石刃核・剥片、石器出土状況



第40図 石器、剥片石器出土状況



第41図 尖頭器・石斧等、縄石器出土状況

打製石鐵（第42図199～229、第43図230～237）

打製石鐵は未製品も含めて74点出土し、その中から39点を掲載する。使用する石材は黒曜石が68点と最も多く、次いで安山岩が4点、チャートが2点であった。なお、黒曜石の内訳は、OB1A類が44点、OB1B類が2点、OB2類が1点、OB3類が2点、OB4A類が6点、OB5類が1点、OB6類が12点であった。

打製石鐵は圓基無茎鐵が主体で、平基無茎鐵も2割程度見られた。形態的な特徴や大きさなどから、下記のように分類した。

- I類 正三角形鐵
- II類 二等辺三角形鐵
- III類 長身鐵
- IV類 五角形鐵
- V類 未製品

さらに、I～IV類は基部の形態から4つに細分した。

- a 基部が平坦で抉りがないもの
- b 基部の抉りが浅いもの
- c 基部の抉りが「U」字形のもの
- d 基部に抉りをもち、脚部が外側に張り出すもの

打製石鐵—I類（第42図199～212）

全体の形状が正三角形を呈するもので、14点図化した。いずれも1.0～1.4cm大の小型の石鐵である。基部の形態は、199～202がIa類である。199～201はOB1A類を素材とする。199は厚手でころろした印象をもち、200・201は扁平な剥片を素材とする。199は先端部を欠損する。200は片面ずつ剥離調整をおこなう。201はOB6類の扁平な剥片を素材とし、先端部を中心に剥離調整をおこなう。203～208はIb類である。203はOB1A類の厚手の剥片を素材とし、先端部を欠損する。204はOB6類を素材とし、鋸齒状を呈する。先端部及び右脚部を欠損する。右側縁部は、裏面を中心に剥離調整をおこなう。205はOB1A類を素材とし、細身の脚部を有する。先端部及び左脚部を欠損する。206はOB1A類を素材とし、わずかに抉りをもつ。207はOB6類の扁平な剥片を素材とし、やや不定形である。208はOB1A類の扁平な剥片を素材とし、周縁部のみ剥離調整をおこなう。

209～212はId類である。209はOB1A類を素材とし、縦軸が短く脚部が張り出すタイプで、先端部を欠損する。210はOB4A類を素材とし、左脚部が欠損しているが209同様のタイプと思われる。211はOB1A類を素材とし、脚部が張り出し、中心から先端にかけてすぼまるタイプで、先端部及び左脚部を欠損する。212はOB6類を素材とし、左脚部を欠損するが211同様に脚部が張り出し、先端部にかけてすぼまるタイプと思われる。

打製石鐵—II類（第42図213～224）

全体の形状が二等辺三角形を呈するもので、12点図化した。基部の形態は、213～215がIa類である。213はOB6類を素材とし、右脚部及び先端部を欠損する。214はOB1A類を素材とし、両側縁部に細かい剥離が見られる。215はOB1A類の扁平な剥片を素材とし、周縁部を中心に剥離調整をおこなう。

216～222はIb類である。216はOB1A類の厚手で不定形な剥片を素材とし、先端部を欠損する。217はOB1A類を素材とし、両側縁部に細かい剥離調整がみられる。218はOB1A類を素材とし、先端部を欠損する。219はOB1A類の扁平な剥片を素材とする。220はOB6類を素材とする小型の石鐵で、先端部を欠損する。221は小型の石鐵でOB1A類の扁平な剥片を素材とし、周縁部に剥離調整をおこなう。222はOB1A類を素材とし、周縁部を中心に剥離調整をおこなう。

223・224はIc類である。223はOB4A類の扁平な剥片を素材とし、周縁部に剥離調整をおこなう。224はOB4A類の扁平な剥片を素材とし、周縁部に剥離調整をおこなう。両脚とも欠損する。

打製石鐵—III類（第42図225～229）

最大長が最大幅の1.5倍以上あるものを長身鐵とし、5点図化した。いずれも厚手の剥片を素材とする。基部の形態は、225～227がIIIc類である。225はOB4A類を素材とし、基部から中心部までほぼ同じ幅となり、先端にむかって尖らせるが、やや丸味をもつ。226はOB4A類を素材とし、丁寧な鋸齒状を呈する。227はOB5類を素材とし、先端部を欠損する。

228・229はIIId類である。228はOB1A類を素材とし、やや浅い抉りに脚部が張り出し、鋸齒状を呈する。229はAN1類を素材とし、やや浅い抉りに脚部が張り出し、脚部外縁は鋸齒状を呈する。先端部を欠損する。

打製石鐵—IV類（第43図230～233）

全体の形状が五角形を呈するもので、4点図化した。基部の形態は、すべてIVb類に属する。230～232はAN1類の扁平な剥片を素材とし、230は鋸齒状を呈する。231は周縁部に細かい剥離調整をおこなう。232は先端部付近がやや丸みをもち両側縁部に細かい剥離調整をおこない、半月状を呈する。

打製石鐵—V類（第43図234～237）

石鐵未製品をまとめて4点図化した。234はOB1A類を素材とし、周縁部に細かい剥離調整をおこなう。235はOB3類を素材とし、製作時に大きく欠損したと思われる。236はOB6類を素材とし、下縁部のみ剥離調整がみられる。